

昭和二十四年三月十九日 第三種郵便物認可  
昭和二十六年五月二十五日印刷  
昭和二十六年六月一日発行 (毎月一日発行)

# 建築（社会）

日本建築協會

VOL-32

1951

6

*The Architectural  
Association of Japan*

HITACHI

快適な乗心地！

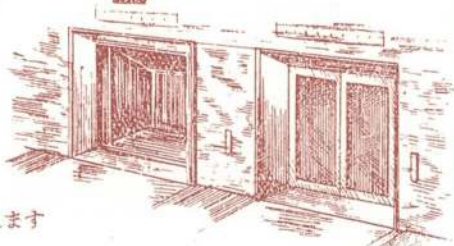
# 日立エレベータ



各種 エレベータ

電動階段

ダムウエータ



新設は勿論保守修理を御引受け致します

日立の最新技術を誇る

## 冷暖房装置

全館冷暖房には

ターボ冷凍機を…

各室冷房には

ユニットクーラーを…

工事施行一式 設計資料御入用の節は最寄の営業所へ御照合下さい

東京 大阪 名古屋 福岡 仙台 札幌

日立製作所



事実が示す期界の名声、赫々たる  
ゴム質優秀、光沢美麗、色彩多量  
耐久力絶大、足触快適、施工誠実

# 桜ゴム床材

責任施工

ゴムマット 1M×12尺  
ゴムタイル 1尺角・5寸角  
階段マット 105CM×28CM  
ゴム製バスルーム

大阪市東区備後町三ノ四

櫻物産株式会社大阪支店

電話 船場 ② 1437・1438  
4681・5767

本社 東京・営業所 福岡・札幌



## 時 の 言 葉

建築士法に基く一級及び二級建築士は相次いで選考が行われ、既に大部分はその結果が明かになった。実際に建築士の資格による権利と義務の生ずるのも間近である。建築基準法と建築士法と建築業法の三者の完全施行によって、日本の建築界は新しい段階に入る筈である。

然し現実の建築界の様相はどうであろうか。不完全な材料、信頼し難い施工・非良心的な設計不合理な工事契約はあまりに多い。建築に関係する人々はすべてこの不満を感じて居る。けれどもその改善は遅々として進まない。

その原因の最大なもの1つは経済界の不安定である。敗戦直後に較べれば回復したとはいえ、日本経済の基盤は甚だ弱い。特需景気は一部の人々を富ますのみで、却つて大部分の国民を不安にさらして居る。明日の生活が保証されて居ない様な状態では、本格的な仕事はできない。

法律の文章のみ立派であつて、現実とは遙か下方で行き詰つて居るのが現実の姿である。経済的裏付けがなければ、如何な美辞麗句も空文に等しいのである。

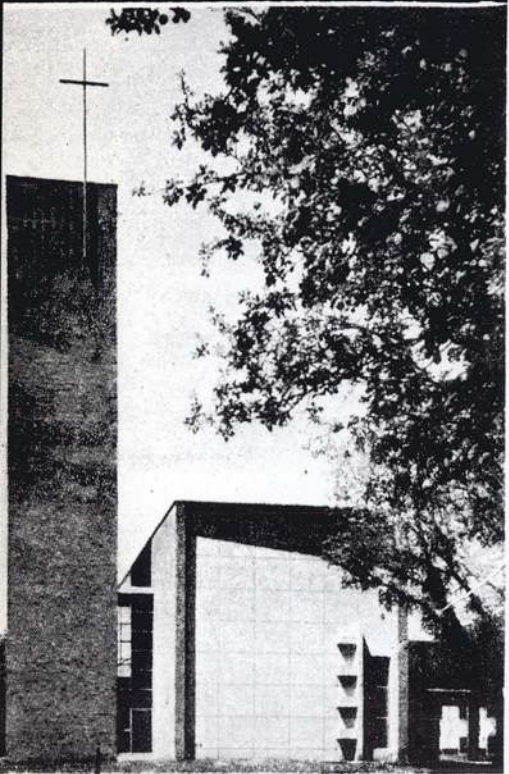


|                    |              |
|--------------------|--------------|
| 時 の 言 葉            | (1)          |
| 新 建 築 紹 介          |              |
| サーリネンの遺作           | (2)          |
| 伊藤忠商事、鉢山アパート       | (6)          |
| ○氏邸応接と玄関改装         | (8)          |
| 建設業界のあり方           | 相沢喜久太郎 (9)   |
| AEコンクリートに就て        | 谷口 尙 武 (13)  |
| 紫 煙 室              |              |
| 皇居の家と庭             | 中 野 順次郎 (17) |
| 私の 建 築 観           | 渡 辺 久 純 (18) |
| 建築積算便覧             | (20)         |
| アスファルト防水工事施工上の注意要項 | 関西建村会編 (23)  |
| 各 会 記 録            | 昭和25年度 (25)  |
| 会 員 動 静 及 会 報      |              |

## 建 築 と 社 會

1951

6

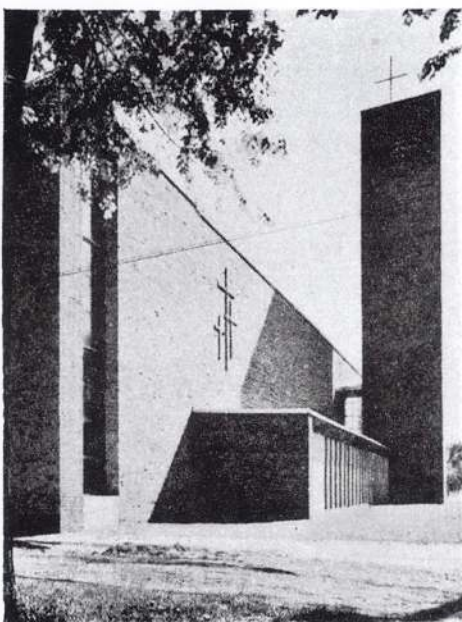


## サーリネンの遺作

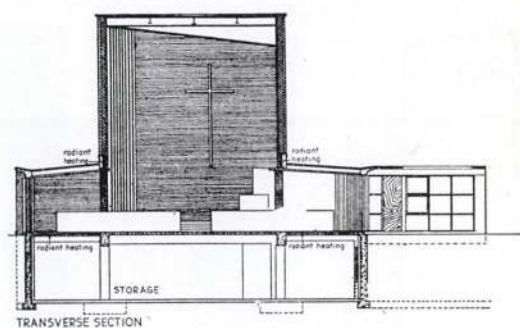
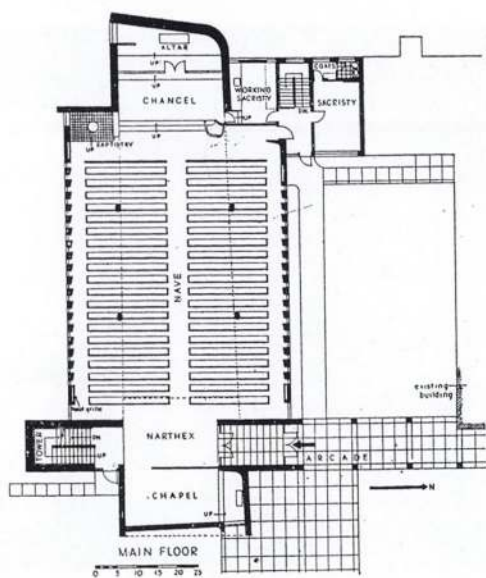
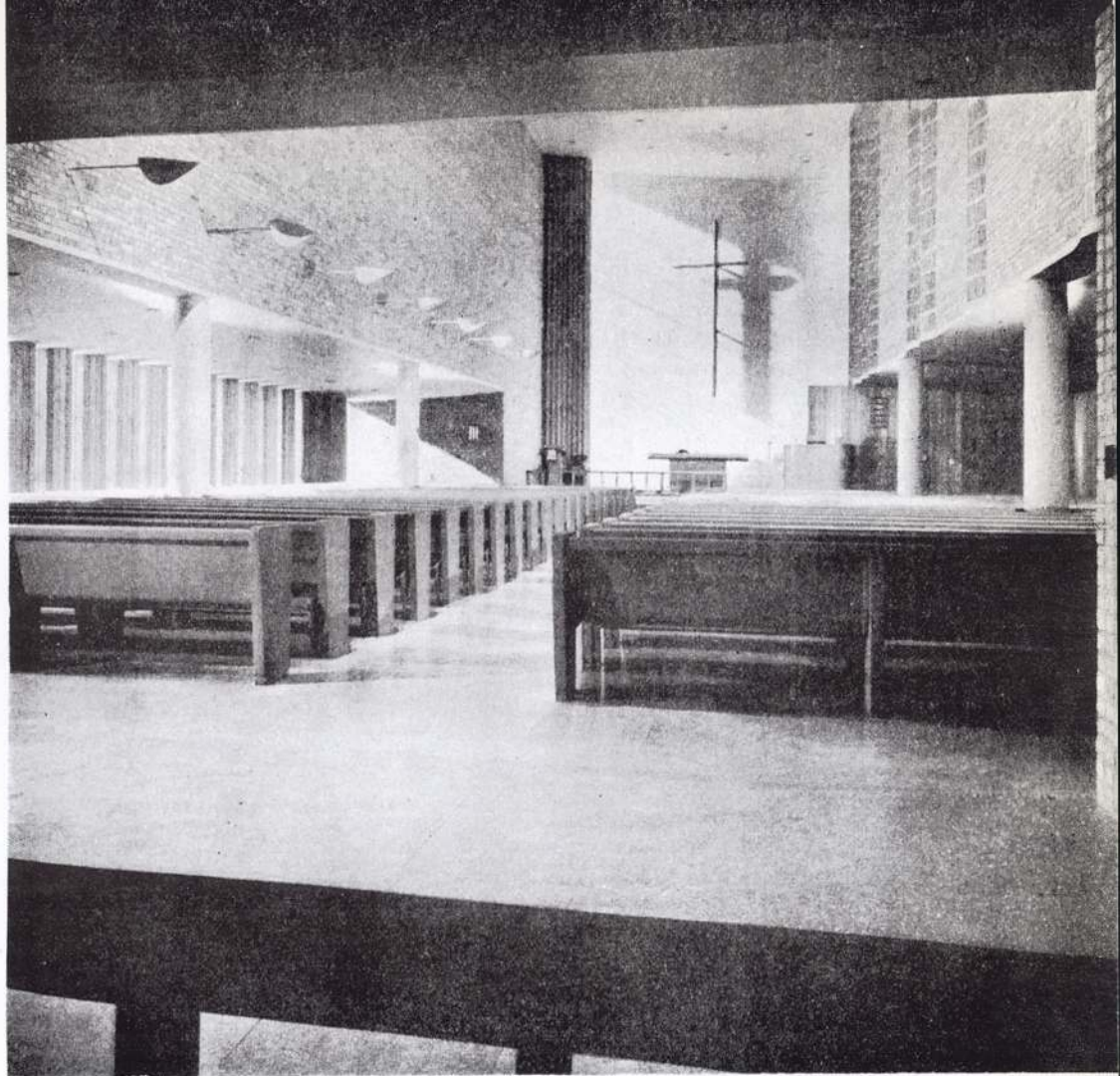
Eliei Saarinen は昨年6月30日76才を以て死んだ。この教会はサーリネン父子の共作としては最後の作品である。工費僅かに30万ドルで、会堂は600人を收容し、且150人の席を増すことが出来る外、50人の合唱者席、洗礼室その他を取り、しかも完全な音響効果を有し、輻射暖房及び換気装置を設えて居る。

プランは単純且周到で、ナルテックスとチャペルはイースターやクリスマスの混雑の際には予備席になる。ナルテックスの上には合唱席とオルガン室がある。全体地下室があり外套室と倉庫等に宛てられて居る。

(Arch. Forum July 1950)



所 在 Minneapolis, Minn.  
 設 計 Saarinen 父子  
 施 工 Kraus-Anderson, Inc.  
 音 響 Bolt, Beranek & Newman



平面図 祭壇後の壁及びチャペルの後の壁が共に主軸に対し傾いて居る。北側のクリアストーリーの壁も主軸に平行ではない。

断面図 天井も傾いている。



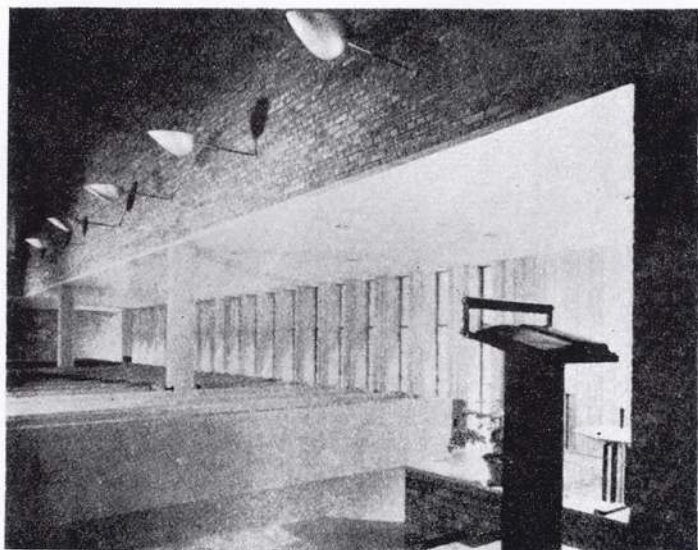
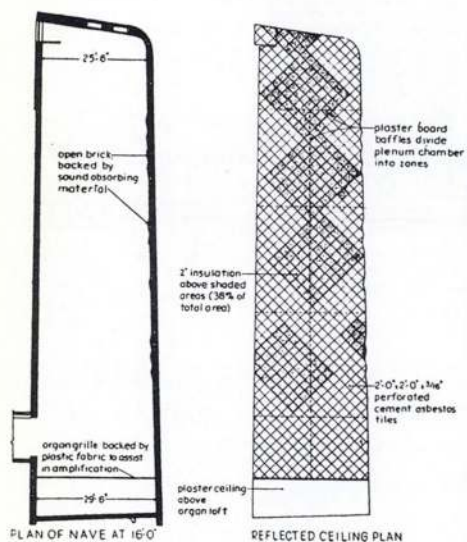
特に注目すべきは音響処理法で、平面及び断面の形が既に考慮されて居るが壁面及天井面には種々の考案がしてある。

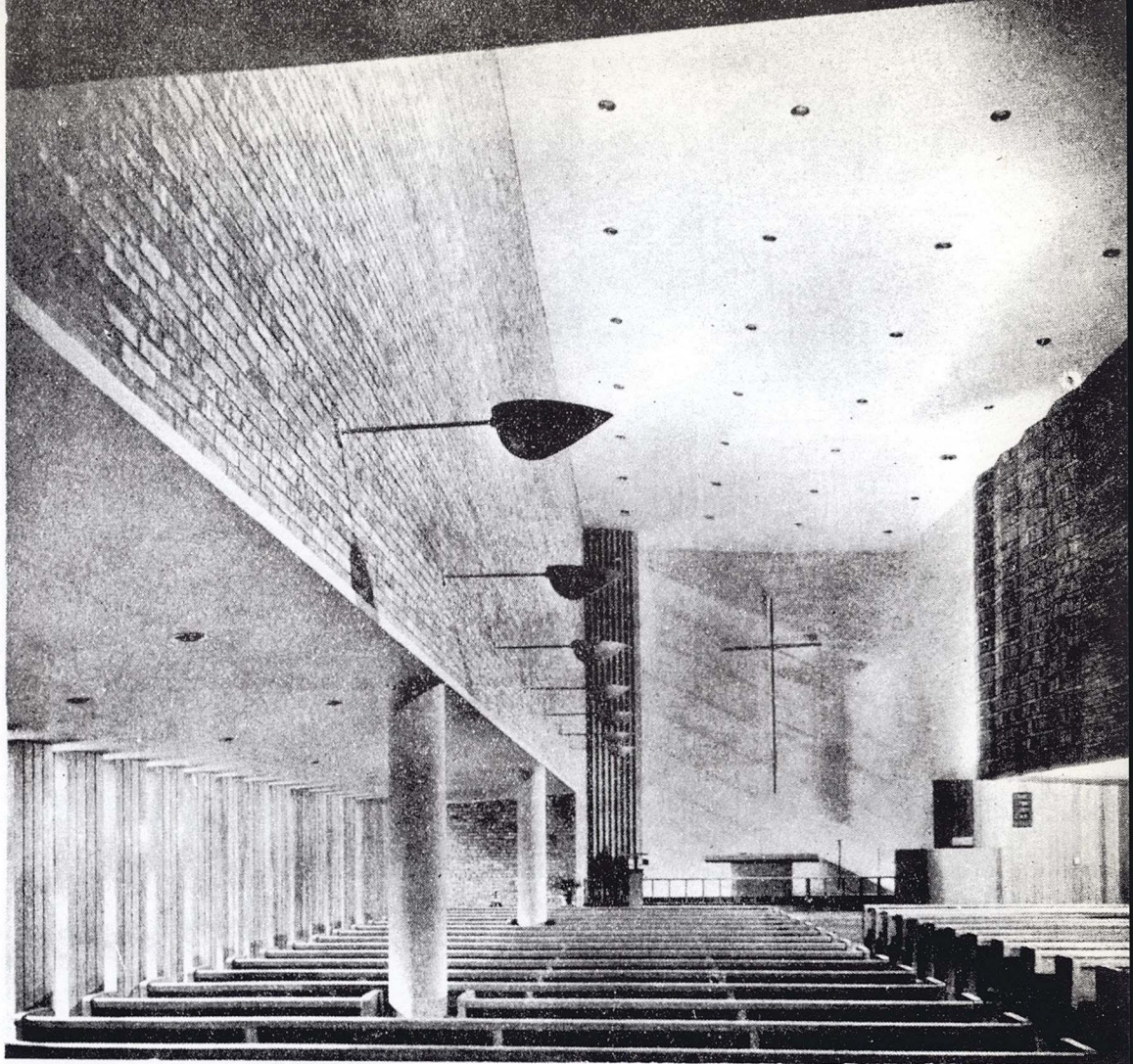
下左図 平面の対向壁は互に平行でない様にしてある。左下図の右は天井平面図で黒く見える部

分は吸音材が貼つてある。

上 図 天井は祭壇に向つて右方に傾けてある。右の壁は折線状に作られ、間をあけた疎瓦壁としてある。

下右図 祭壇より会衆席を見る。目

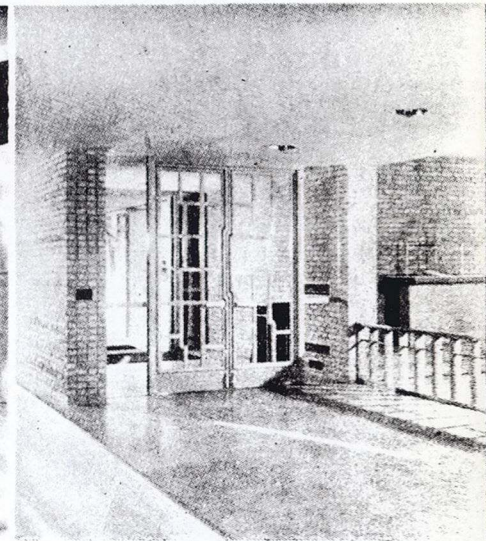
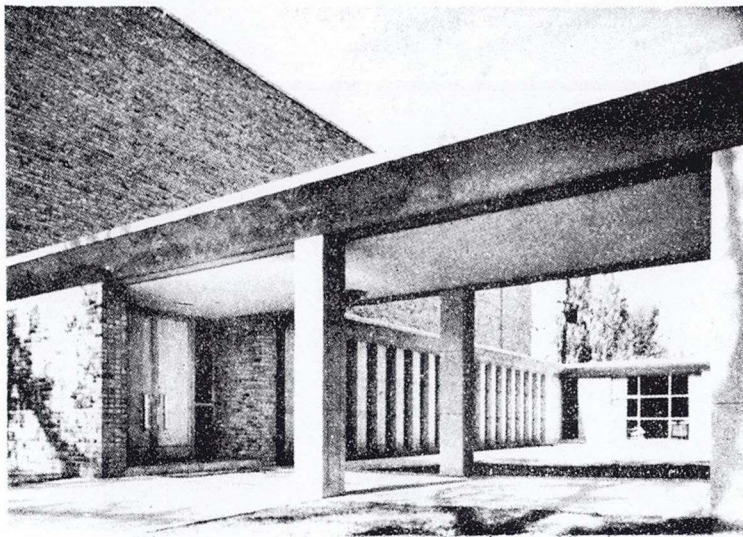


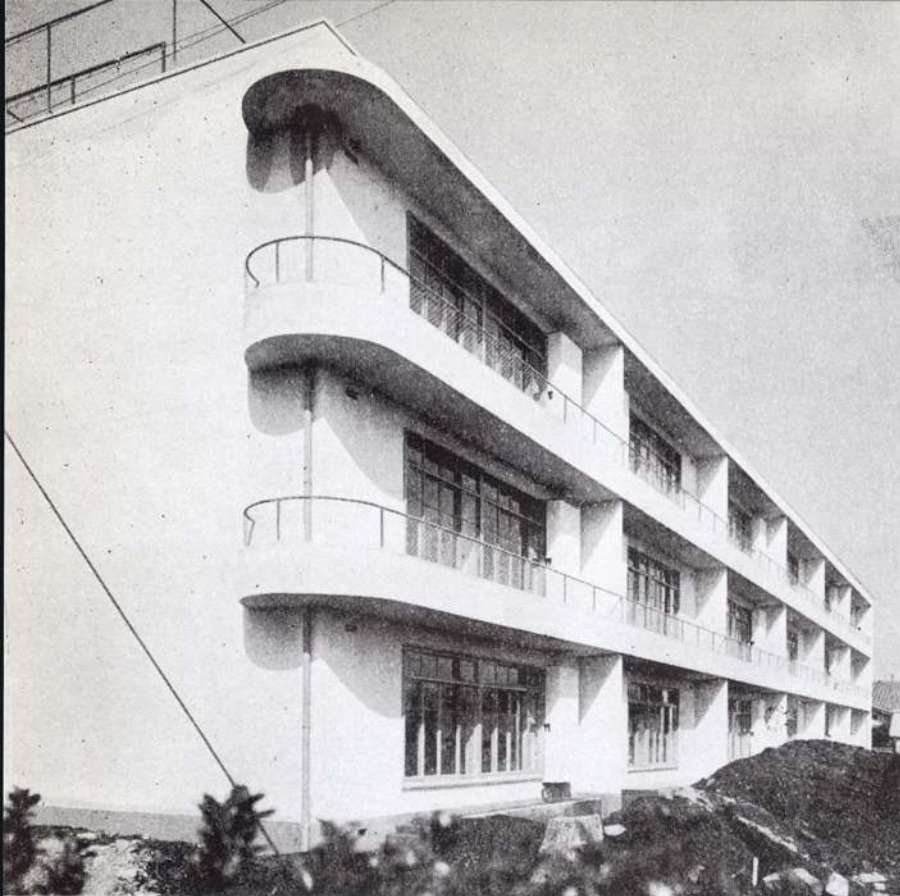


上 図 祭壇を望む。照明法が特に注目される。壁から突出したスプーン型の照明器具はアルミニウム製で強い間接照明をして居る。天井の小孔は一般照明用。

上左図 新館と旧館をつなぐ渡廊下。

下右図 主玄関。収まりの良い詳細を注意されたい。





## 伊藤忠商事 鉢山アパート

位置 東京都渋谷区鉢山町45番地

設計 株式会社  
監理 大阪建築事務所

施工 清水建設株式会社

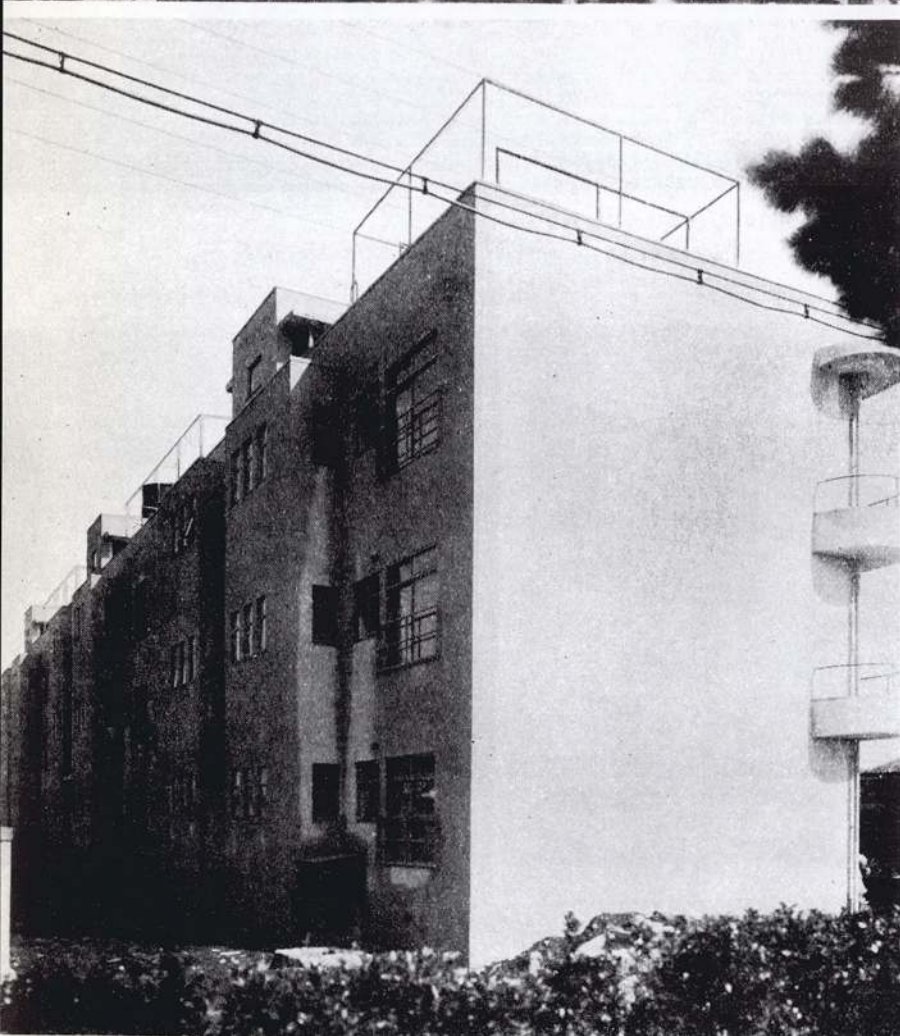
電気工事 三機工業株式会社  
電気部

給排水工 大阪電気暖房商会

工期 自 昭和25年10月5日  
至 昭和26年3月1日

用途 社員住宅 18戸

|      |      |        |
|------|------|--------|
| 建物面積 | 地階   | 38.64坪 |
|      | 1 // | 130.37 |
|      | 2 // | 130.37 |
|      | 3 // | 130.37 |
|      | 屋階   | 11.50  |
|      | 延    | 441.25 |
|      | 1戸当  | 21.73  |



# 構造

鉄筋コンクリート造3階建

# 外部仕上

色モルタル吹付 笠木及腰  
人造石洗田

# 内部仕上

玄関 床、大磯 洗田  
和室 砂壁  
台所 プラスター壁  
浴室、便所 腰タイル貼



(南側)

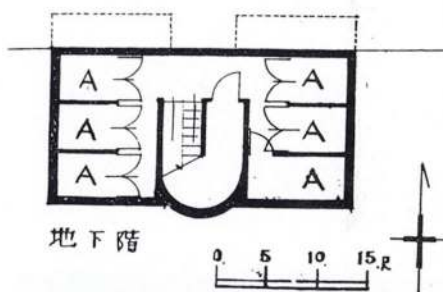
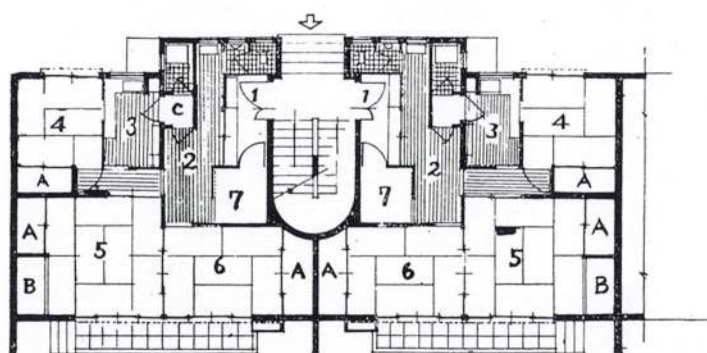
# 平面図説明

## 各階平面

- |       |        |       |
|-------|--------|-------|
| 1. 入口 | 4. 4畳半 | 7. 物置 |
| 2. 玄関 | 5. 8畳  | A. 押入 |
| 3. 台所 | 6. 6畳  | B. 床  |

## 地下階平面

- |       |       |
|-------|-------|
| C. 浴室 | A. 物置 |
|-------|-------|

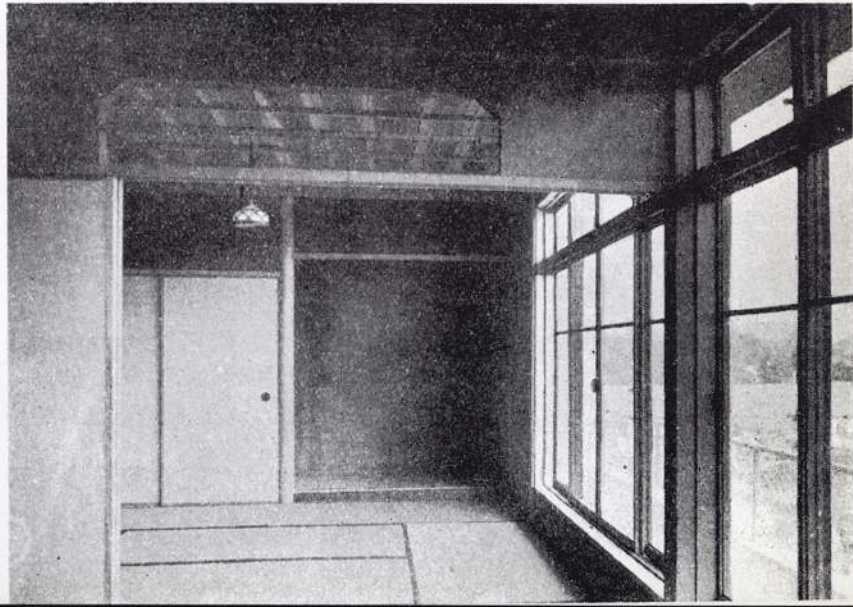
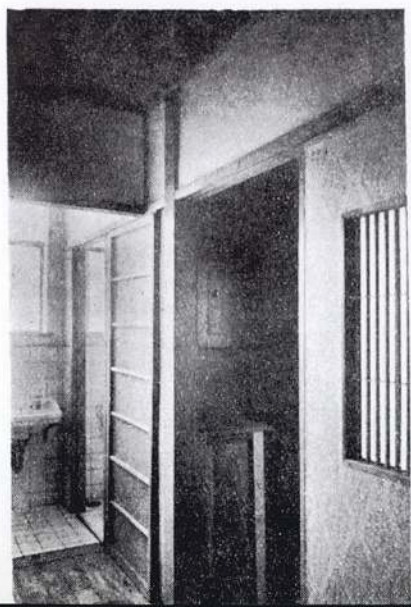


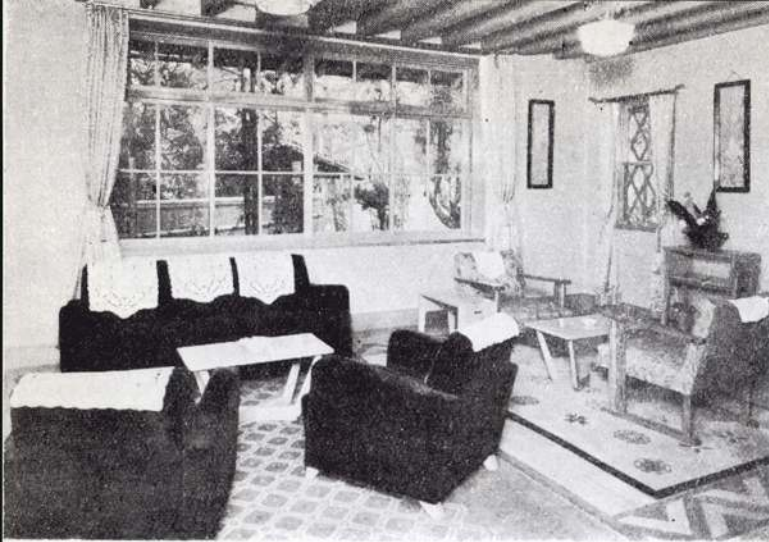
地下階

0 5 10 15m

(左側)

(居間)





# 應接室

床 堅木寄木貼  
 壁 布張りペンキ拭取仕上  
 天 梁型挽肌ペンキ拭取仕上  
 造 檜材使用  
 焼 炉ストーブ 大理石及タイル貼り  
 出 外 雨戸の代りに鐵戸使用

# 玄関

柱 黄竜山石積み  
 床 〃 敷き  
 造 檜材使用

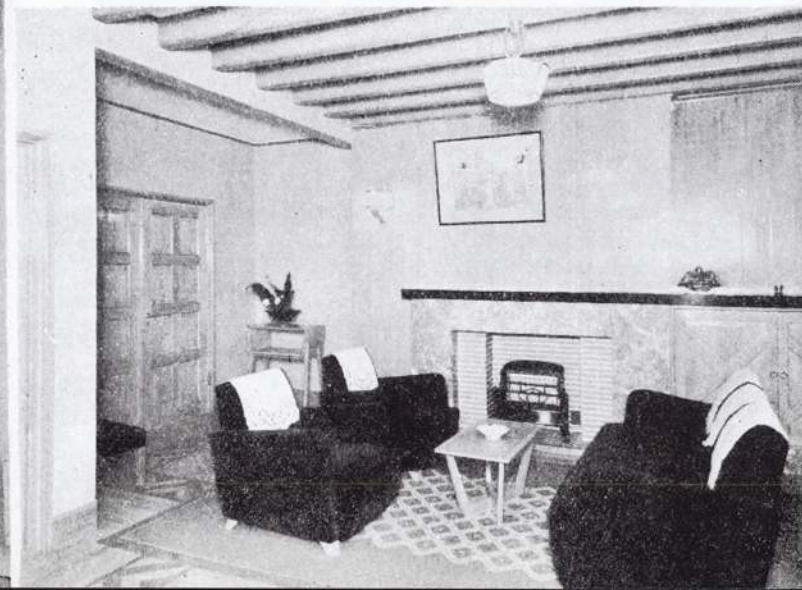
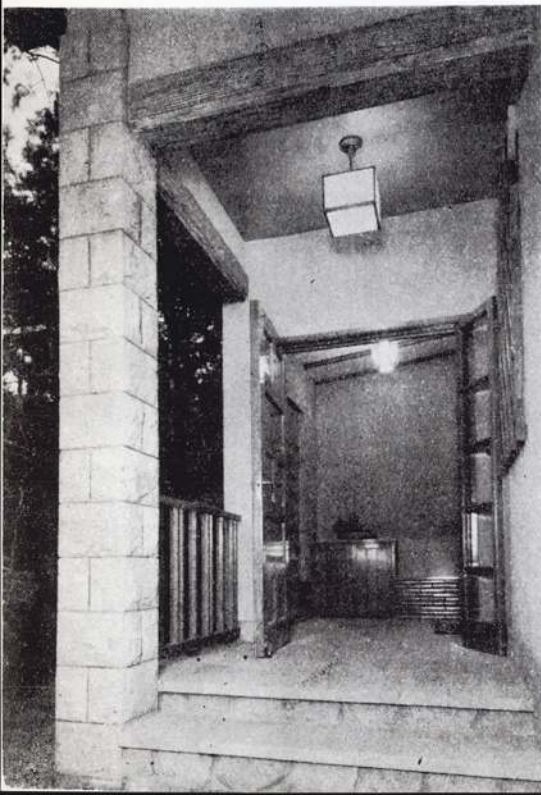
○氏邸

應接と玄関

改 装

(芹 屋)

設 計 大 林 組  
施 工



# 建設業界の経済のあり方

相沢喜久太郎

建設業界が終戦後において、予想外の多忙を来した理由は我国における各府県都市が戦禍を被つたためであつて、いわゆる復興のための応急バラック式或は公共施設の特に急を要するものについてのみ盛んに建設が進められ、只金槌と鋸とさえあれば家が建つと言う程度の、安普請が乱立するという叩大工の活況時代が展開されたのであつた。

このような時代が約四年余りも続いていたけれど、一応我国の一般産業及び貿易界等の経済方面が、稍々安定されるに至り、工場の復旧、機材の整備、交通の回復、食料事情の好転などと共に、充分とはいえないが先づ最低生活の下位程度のレベルにまで達したので、それらに伴い建設業界にも徐々に一機光の光明が射し始め、先づ東京のビジネスセンターといわれるあたりには、久々に鉄骨鉄筋コンクリート等の、高層建築物も建設され始め、焼けビルの修理も着々出来始めたのであつた。

関西方面においても神戸の如きは比較的早くから、さすがに貿易港の面目上からみても、相当活潑な復興振りを示し、次で大阪も立上りかけたのであるが、何分船場島之内方面は殆んど焼野原と化しており、然も大阪の特異性ともいふべき中小商工業者が多く店舗を有していた関係で、他の都市に比べれば復興への立ち上りは比較的遅かつたのであつた、ところが昨年下半年頃から俄然建設の気運が芽ざし始めて、本年の初頭には駅前の地帯から鉄筋本町筋御堂筋等にかけて、大阪本来の姿より以上の、近代的な規模構想を以て各所に事業場が起りつつあることは、まことに慶祝に堪えない次第である。

殊に土木事業に於ては全国にも稀であらうと思われるものの一つに、大阪府市に於て計画且つ実行されつつある、彼の大防潮堤工事の如きは、土木業者への活路を与えたものとも考えられ、当局並に業者の両者は完全に、協力態勢を以てその工事に邁進しつゝ一日も早く本工事が完成し、大阪府市を安全に守るものとなる日の来ることを、大阪市民はこぞつて祈念し、業者も又涙ぐましい活躍をしつつあるのである。又公共的の施設物の内、大多数府市民の渴望の的となつてゐる、住宅に於ては府市も相共に木造住宅及び鉄筋コンクリート造の共同住宅を順次、建設中であつてこのまま押し進めてゆけば、近き将来には或る程度住宅難の緩和も期し得られる事と思う、現在の如く借家事業を行うことの困難である時としては、どうあつても府並に市の格段の努力に待つより外に手段はないのであつて、たとえ住宅金融公庫法という、結構な制度があつても、まだまだ一般のサラリーマンや

貧乏人などでは、あの制度まで利用する手を延ばし得ない実情である。

このように建設業界の見通しは可成り有望であり、経済面に於ても悲観説をとえざる要は無いように考えられるが、他の産業と対照してみると建設業者は其の利潤のあまりにも寡少である事が痛感されるのである、製造工業、小売商店等についてみても、それらの利益が二割乃至三割位というのが、大部分であつて建設事業の如く、請負金高がどんなに多額の数を示していても、その得るところの純利益が五分や一割では洵に微々たるものであつて、遺憾至極であると云わざるを得ない、それも必ず一割程度は儲かるものならばまだよい方として實際経営してみると十の内二つや三つは赤字を背負ひ込むことも屢々起り得るのであつて、これらの損得を差引れば実に有難くない、外面派手にみえて内面苦しい業績を切り抜けなければならぬ、故に建設業者は茲に自肅自戒してその経営の合理化をはかり、業者それ自体の安定と向上を計るように思ひを致し、国家も施主も業者も御互に経営問題の中核ともなるべき点を取り上げて営業の成り立つよう考慮されるべきではなからうか。

建設業界に於て最も重大な問題として考慮させられるものに、入札という制度がある、これが中々問題の焦点であつて、それも指名入札ならば先づよい方で公入札となれば、ダンピングがこれに伴ひやすく、工事を獲得したという一時の快感はあつても、さて工事の進捗するに従ひ、予算が不足しているため自然に無理があり、又面白味というものもなくなつて、監督者或は発注者といがみ合つたり、工事内容の手抜き問題、その他芳しからざる問題がまま起り得るわけである、結局業者は信用を落すとか、自滅するかの道に追込まれるのであつて、業者自らが全く自信のある見積予算を以て、堂々と他の業者と戦ひ、決して無理のある予算では仕事をしないという、前にも述べたように自肅と自戒とを保持し、建設業者としての誇りを傷つけぬように、少くも今後は之を絶体的なる金科玉条としてゆくべきではなからうか。

然らば、そんな聖人のような説を守つていたならば、いつまで経つても一つも仕事が取れなくなりはいないかという疑問も起り、正直者は馬鹿をみる結果になりはいないか、という業者も一部の声として起るが、之に対して他の人は他の人だ、俺の方はそんな事にかかわりなくどしどしと安く、そして数を多く取れば金のやり繰りも出来て、経済的に於ても何とかやつてゆけるから、少々無理をしてもかまわないという輩が、その跡を絶たな

いならば、我国の建設業界の発展は望み薄と云はざるを得ない。吾々は断呼として斯く叫びたい、正当な利益の得られないような工事は絶対に入手しない!!と、業者の経済を革新するの意図を以て先ず、するな、と心ある一人が実行の鞭を垂れこれが二人になり百千万人に及ぼしてゆくならば、近き将来には全国の業者は完全に、赤字を出してまで無謀な仕事をしている業者は一人もない、という理想的な線まで到達させたいものである。

工事が追々殖えつつある此の期会に、あせつてダンピングする程、愚なことはあり得ない事である、経済がスムーズにやつてゆけてこそ始めて、優良完全な工作物もなしとげられるのである、損ばかりしていつか滑な営業は成り立たない、よろしく氣宇と視野を寛大な心持をもつて、目前の小我を捨て永遠に持続する業界の経済的廓清を計るべき秋である。

一方業者として金融の必要ある場合、銀行では貸出しの強い制限を加えているので、その経営にあたる者の等しく困難を感じさせられている、これは実に吾が業界を無視したものといおうか、業界の実状について無智であるのか、何としても臍に落ちぬ話である、産業国防等あらゆる面に重要缺くべからざる建設業界に対し、斯かる差別的取扱いは行つてゐる事は言語同断である、業界からも多額国会議員も選出されている現在、これらの方面にも呼びかけて、金融打開の根本政策について大々的に猛運動を起し、当局の覚醒を促すと共に所期の目的を達成せしむべきであらう。

殊に最近の業界に於ては相当深刻な経済の行き詰りを来している、即ち仕事はあつても施主からの支払金がおそい事、前渡金の制度が中々実行に移してくれない事（尤も一部の官公署で前渡金をくれるところもできたが）資材の騰貴による資金の運転が非常に困難性の多い事、即ち特需景気の波に押されて現金払をしなければ資材を売ってくれない事などで、業界としては随分骨が折れる事が多い。

いづれにしても業者が手持資材を多数貯えているという事は殆んど少いのであつて、此頃のように資材の急騰してきた時は、業者としての経済面に対する苦心には全く閉口させられているのである、そこで全国の建設業

協会ではこれらの物価騰貴に対する契約の更改或は、前渡金問題の促進、入札方法の合理化等にあらゆる、経済上ゆるがせにできない当面の問題につき官公庁及び民間の特定部門の方面へ、陳情書を提出して之が解決と認識を促す運動が行われたのであつた。

何がこのように業界を苦しめるようにした原因か、といへば、直接的にいへば朝鮮動乱の勃発であろう、それに依る資材がどしどし流れ始めたので、建設に使用する鉄材、セメント、木材等が先づ著しい値上りをはじめた、それに加えて不幸にも、大阪ではジェーン台風という不時の天災に見舞われて、近年にない大風水害をもたらした此の復旧に莫大な資材が必要となり、当時労働者も忙がしく資材も沢山入用なので、価格も著しく高くなつたのである、続いてアメリカの非常事態宣言が行われたから、益々拍車をかけられて、図表第一、に示す如く鉄類に属するすべての物は鰻上りに、のぼり始め本年三月十五日現在の調子によつてみても止るところを知らないという始末である次に値上りの著しかつたのは木材であるが現在はやや横ばい状態に近いようにみられている。

此の図表について御覧の通り最も変動の少いのは碁子と屋根瓦葺位のもので、その他は相当急騰の歩みをつづけているので、長期工事を請負っている業者又は値上り直前に、安い価格で引請られた業者は非常に困難を感じているわけである、こんなに著しい建材の変動は恐らく今迄にもその例は少なかつたであらう、但し第一次世界戦争の時は別としても、あの時の日本の場合と、今日のように被占領下にある場合とは多小の相違はあるものと考えられたい。

（註）図表第二は朝鮮事変勃発直前の場合

（筆者、大阪建設業協会工務部長）

### ◎建築士各位にお願い

本会会員にして一級建築士又は二級建築士に合格されました各位は至急資格かくとくされた年月をお知らせ願います。（会員台帳記入整備の都合上）  
日本建築協会、主記

理想的床材料

リノリウム



リノタイル

特製 リノリウム糊 リノリウム・ワックス

東洋リノリウム株式会社

本社・工場 兵庫県伊丹市伊丹五五八 電話 伊丹 1・51・69

大阪事務所 大阪市東区瓦町二丁目 三和ビル  
電話 北沢 375・376

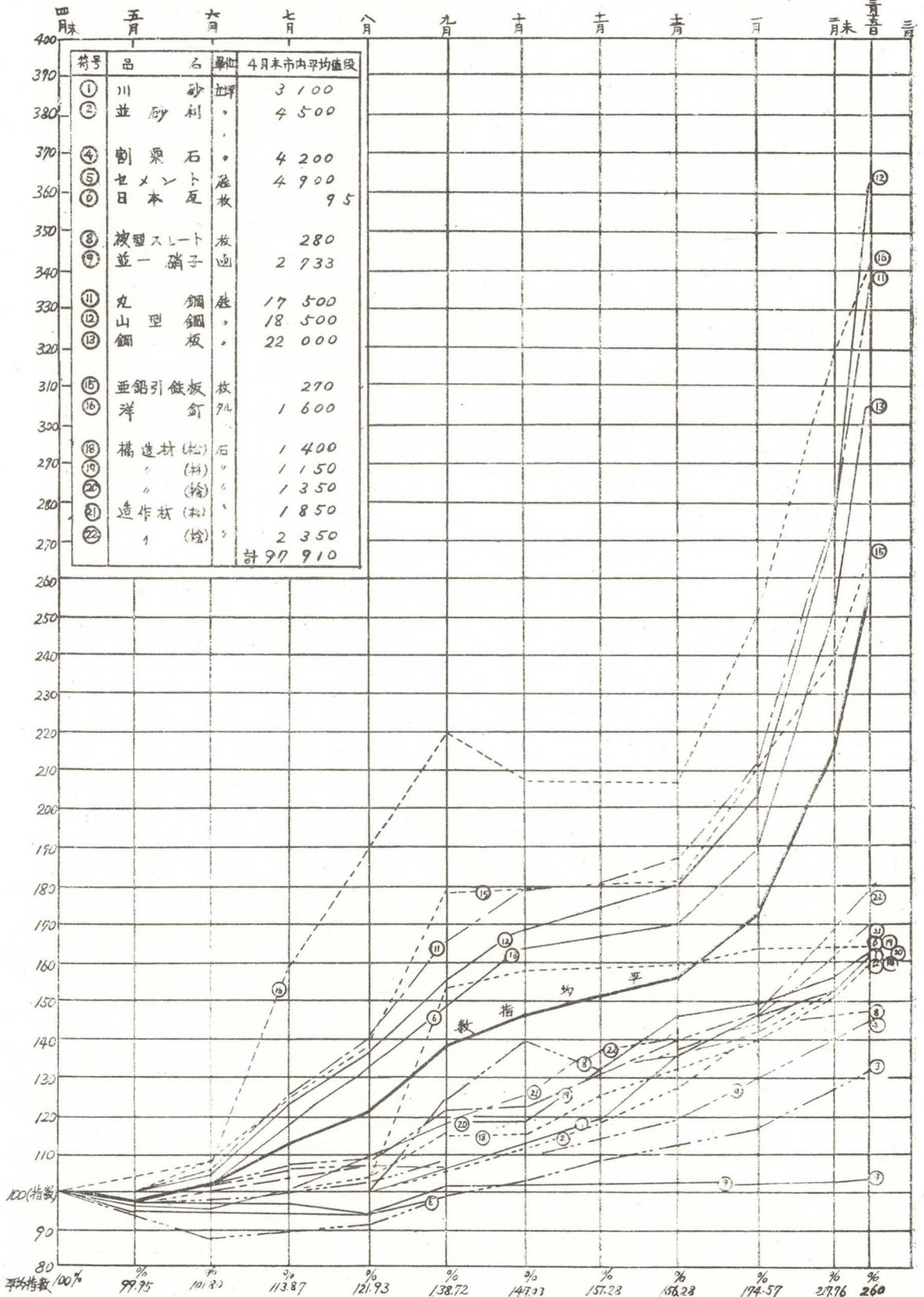
東京支店 東京都中央区銀座四丁目 三和ビル  
電話 京橋 1701・2564

# 主要建築材料物価趨勢図

大阪建設業協会

昭和25年

昭和26年



建設主要資材指数表

(昭和二五年四月未値段を一〇〇トス)

| 番号 | 品名         | 規格             | 昭和25年<br>4月 円 | 4月 %  | 5月 %    | 6月 %    | 7月 %    | 8月 %    | 9月 %    | 10月 %   | 11月 %   | 12月 %   | 昭和26年<br>1月 % | 2月 %   | 3月15日 % |
|----|------------|----------------|---------------|-------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------------|--------|---------|
| 1  | 川砂         |                | 3,100.—       | 100.— | 100.—   | 100.—   | 100.—   | 100.—   | 106.45  | 112.90  | 119.36  | 135.48  | 145.16        | 151.61 | 161.29  |
| 2  | 並砂利        | 一寸二分下          | 4,500.—       | 100.— | 100.—   | 100.—   | 100.—   | 100.—   | 106.67  | 111.10  | 117.78  | 128.89  | 140.—         | 151.11 | 160.—   |
| 3  | 鉄前砂利       | 八分下            | 4,900.—       | 100.— | 100.—   | 100.—   | 100.—   | 100.—   | 105.10  | 110.20  | 118.50  | 126.53  | 136.73        | 146.94 | 157.14  |
| 4  | 割栗石        | 五六寸程度          | 4,200.—       | 100.— | 100.—   | 100.—   | 100.—   | 102.38  | 107.14  | 109.52  | 114.23  | 119.05  | 130.95        | 138.09 | 145.24  |
|    | ◎基礎材       | 平均指数           |               | 100.— | 100.—   | 100.—   | 100.—   | 100.599 | 106.287 | 110.778 | 117.365 | 126.946 | 137.724       | 146.70 | 155.69  |
| 5  | ポルトランドセメント |                | 4,900.50      | 100.— | 93.88   | 87.75   | 89.80   | 91.84   | 97.94   | 102.05  | 108.16  | 112.25  | 116.33        | 126.53 | 132.65  |
| 6  | 日本瓦        | 淡路一等六四引掛棧      | 9.50          | 100.— | 98.95   | 100.—   | 100.—   | 100.—   | 152.63  | 157.90  | 157.90  | 175.90  | 163.15        | 163.16 | 163.16  |
| 7  | 厚型スレート     | 三十六枚物          | 17.50         | 100.— | 100.—   | 100.—   | 100.—   | 100.—   | 131.43  | 131.43  | 131.43  | 131.43  | 131.43        | 131.43 | 131.43  |
| 8  | 波型スレート     | 長六尺物           | 280.—         | 100.— | 98.22   | 98.22   | 100.—   | 100.—   | 125.—   | 139.30  | 132.14  | 135.71  | 142.86        | 146.43 | 146.43  |
| 9  | 硝子         | 並一             | 2,733.—       | 100.— | 98.79   | 96.96   | 96.96   | 93.30   | 102.45  | 102.45  | 102.45  | 102.45  | 102.45        | 102.45 | 103.92  |
| 10 | 同上         | 正一             | 4,300.—       | 100.— | 96.51   | 96.51   | 96.51   | 96.51   | 100.—   | 100.—   | 100.—   | 100.—   | 100.—         | 100.—  | 102.33  |
|    | ◎窯業材       | 平均指数           |               | 100.— | 96.012  | 93.153  | 94.011  | 94.011  | 100.388 | 102.353 | 104.640 | 106.356 | 108.181       | 112.30 | 115.93  |
| 11 | 丸鋼         | φ 13 耗         | 17,500.—      | 100.— | 100.—   | 105.71  | 125.71  | 137.14  | 165.71  | 177.14  | 180.—   | 185.71  | 211.43        | 280.—  | 337.11  |
| 12 | 山型鋼        | 6 耗 × 75 × 75  | 18,500.—      | 100.— | 100.—   | 105.41  | 124.32  | 135.13  | 156.75  | 167.57  | 173.—   | 178.38  | 205.40        | 274.60 | 361.—   |
| 13 | 鋼板         | 厚6 耗 × 3 × 6   | 22,000.—      | 100.— | 100.—   | 102.27  | 118.11  | 131.82  | 150.—   | 163.63  | 166.—   | 168.18  | 190.91        | 250.—  | 304.50  |
| 14 | 薄鋼板        | 井 23 × 3' × 6' | 200.—         | 100.— | 100.—   | 115.—   | 125.—   | 145.—   | 175.—   | 190.—   | 190.—   | 192.50  | 215.00        | 252.50 | 290.—   |
| 15 | 亜鉛引鉄板      | 〃 × 〃 × 〃      | 270.—         | 100.— | 100.—   | 107.67  | 124.07  | 137.03  | 177.80  | 177.80  | 177.80  | 179.63  | 211.11        | 240.74 | 266.66  |
| 16 | 洋釘         | 2 〃            | 1,600.—       | 100.— | 103.13  | 106.25  | 156.30  | 187.50  | 218.80  | 206.25  | 206.25  | 206.25  | 250.00        | 318.80 | 343.71  |
|    | ◎鋼材        | 平均指数           |               | 100.— | 100.083 | 104.411 | 123.331 | 135.941 | 158.698 | 170.068 | 171.732 | 177.576 | 203.096       | 268.13 | 332.27  |
| 17 | 素材         | 松二等品二間末口五寸     | 800.—         | 100.— | 100.—   | 100.—   | 103.75  | 105.—   | 106.25  | 108.75  | 112.50  | 116.26  | 122.50        | 131.25 | 141.25  |
| 18 | 構造材        | 〃 二間 × 4 × 6   | 1,400.—       | 100.— | 100.—   | 100.—   | 100.—   | 103.57  | 114.23  | 114.28  | 125.—   | 132.14  | 139.39        | 150.—  | 160.71  |
| 19 | 同上         | 杉二間 × 3.5角     | 1,150.—       | 100.— | 100.—   | 100.—   | 102.61  | 106.96  | 121.74  | 121.74  | 130.43  | 139.13  | 143.48        | 152.17 | 163.48  |
| 20 | 同上         | 檜 同上           | 1,350.—       | 100.— | 96.30   | 96.30   | 100.—   | 107.41  | 118.51  | 118.51  | 133.33  | 146.15  | 148.15        | 155.56 | 163.—   |
| 21 | 造作材        | 杉小節挽立材         | 1,850.—       | 100.— | 100.—   | 100.—   | 105.41  | 105.94  | 119.—   | 124.33  | 130.—   | 137.84  | 145.95        | 162.16 | 167.56  |
| 22 | 同上         | 檜 同上           | 2,350.—       | 100.— | 100.—   | 100.—   | 106.38  | 106.38  | 114.90  | 127.66  | 136.17  | 140.43  | 144.68        | 166.—  | 178.72  |
|    | ◎木材        | 平均指数           |               | 100.— | 99.438  | 99.438  | 103.483 | 105.955 | 116.292 | 121.011 | 129.771 | 136.293 | 142.472       | 156.18 | 165.84  |
|    | ◎総平均指数     |                |               | 100.— | 99.95   | 101.80  | 113.87  | 121.93  | 138.72  | 147.03  | 151.28  | 156.28  | 174.57        | 217.76 | 260.—   |

# A E コ ン ク リ ー ト に 就 て

谷 口 尚 武

最近、AE（空気連行）コンクリートに関して一、二の実験を行い、2ヶ所の工事現場でその施工を実施したが、その際、このコンクリート新工法について若干の調査を行ったのでここにとりまとめて参考に供することとした。

## 1. 空気連行コンクリートとは何か。

コンクリート混合のときに或種の薬剤を混ざるとコンクリート全般にわたって微細な空気泡が発生する。この空気泡は未硬化のコンクリートの性質に種々の変化を生ずるが、なお硬化後もコンクリートのなかに残留して、コンクリートの耐久性の増大等に役立つ。このように人工的に小気泡を含有させたコンクリートがAir Entrained Concreteである。この名称の日本語としての定訳はできていないが、「AEコンクリート」（土木学会制定）「空気連行コンクリート」（セメント技術協会々長藤井光蔵氏試案）が比較的広く用いられ「連気コンクリート」「空気入コンクリート」等の訳語も一部の人々に用いられている。

空気を発生させる薬剤は原語では Air Entrained Agent（略して A. E. A.）と呼ばれ、「空気連行剤」「AE剤」等と邦訳されている。

さて、このAEコンクリートは十数年来、米国でコンクリートの耐久性の増大を主目的として、主に土木工事関係方面で研究されて来たものであるが、ウォーカビリティに好結果をあたえコンクリートの施工が非常に楽になるので、建築方面でも愛用されるようになり、米国では普及しすぎて弊害も生じている現状である。終戦以来我国にも米国からAE剤が次々と輸入され、つづいて国産のAE剤も数種が名をあげ、研究よりもむしろ実施が先走る位に普及しつつある。

## 2. AE剤にはどんなものがあるか。

大別すると樹脂（松脂等）の系統のものと、石油系統のものにわけられる。なお、後述するように空気連行によつて生ずる強度の低下をカバーしようとして、気泡発生剤に種々の強度増加剤が加えられているのが普通である。

輸入品ではヴァインソル・レヂン、プロテックスが樹脂系で、ダレックスは石油系である。ヴァインソルレヂン（岩井産業取扱）は松脂系統の茶色の粉末で使用の際に苛性ソーダで中和しなければならぬ不便がある。この面倒をさけるように予め処理したものがヴァインソルNVXと呼ばれる。又苛性ソーダで中和したものを20%の溶液として販売している業者（山宗化学）もある。ヴァインソ

ルレヂン系のは他のAE剤に比し安価なのが特長である。プロテックス（日本海外商事扱）も同じくヴァインソル系統のものにセメント拡散剤を配したもので暗褐色の液体である。ダレックス（第一物産扱）は前に述べたように前二者とは全然、系統の異なるものであるが外観はプロテックスに似た暗褐色の液体である。この薬は空気発生作用が比較的鈍感であるので、少々量を間違えても空気の過量発生心配がないことを特長としている。価格は前二者より割高になる。輸入品には他にボゾリスというものがあるが、これは空気連行よりも、むしろセメント拡散によるコンクリートの初期強度の増強を主目的としているもので、他のAE剤とは相当、趣きを異にしているのでここではふれない事とする。価格も他の一般AE剤とは比較にならぬ位、高価である。

国産品として松脂系統のものにはスプーマ15（日本松脂製）がある。褐色の液体であつて、価格はプロテックス、ダレックスよりは安いようである。スプーマ以外の国産AE剤はすべて石油系合成洗剤、所謂「ソープレスソープ」の部類に入るもので、粉末状、或はバター状で販売されている。商品名としてはニューレックス（日本油脂製、バター状）、ネオソープ（三井化学製、粉末状）、ソープレックス（日新化学製、粉末状）、ネオベレックス（花王油脂製）等がある。国産品にも勿論、その性質に於て米国品に劣らないものがあると考えられるが、何分、充分な研究データがなく、又米国品のように長期の施工成績も無いのでその採用に当つては調査、実験に慎重を期す必要がある。

さて、これらのAE剤の用法としては、セメント製造の剤に混じてAEセメントに仕上げる方法と、現場混合のときにミキサーに投入する方法とがあり、米国に於てもその優劣について相当、論議されているようである。後述のように、同量のAE剤を用いても現場の施工条件によつて発生空気量が大幅に変動するものであることを考えれば、AE剤を現場で投入する方法の方が一般には適当なようである。我国でもこの用法が普及されているが、一方、AEセメントの製造も日本セメント其他に於て試作が開始されている。

## 3. 連行空気はコンクリートにどんな影響をあたえるか。

なるべく数字をはぶき、簡単に列挙すると次のとおりである。

（イ）ウォーカビリティがよくなる。微細な気泡が軟いボール状の微少な骨材として作用するのでウォーカビ

リティが大いに改善されるのである。このため、碎石や粒度の悪い骨材も使用が容易になるし、発生した空気量とほぼ同容積の砂を減少しても配合上不合理を生ぜず、浮き水と分離が減少するという結果が得られる

(ロ) 耐久性がよくなる。空気量を4~6% (コンクリートの全容積に対する連行空気の容積の百分率) 連行したコンクリートは凍結融解による破壊作用に対する抵抗が非常に増大する。空気量が6%以上に増してもこの抵抗力は増さずかえつて減少する。

(ハ) 空気を連行させたためにウオーカビリティがよくなり、そのため水セメント比を低くして施工したならば透水量は減少する。水セメント比を同じにしておいて空気を連行させても透水性には大した変化はない。

(ニ) 同じ水量のコンクリートでは連行空気量が增大するにつれて乾燥収縮も増大する。ただし空気の連行によつてコンヒステンシーを増した分だけ、水量を減じてスランブを同一に保つように配合を調整した場合は空気量によるコンクリートの収縮増大は極めて僅かである。

(ホ) 同じ水セメント比のコンクリートでは連行空気量を増すにつれて、強度が減少する。これは古くからのタルボット氏のセメント空隙比説に示す通りである。通常、空気量が1%だけ増加すれば強度は4~6%減少すると言われている。但し連行した空気によつてコンクリートがウオーカブルになつたのに応じて、水量を減少したり、砂量を加減したりして、仕様書の要求(セメント量、スランブ等)と合致させた場合には強度は必ずしも減少するものではない。例えばスランブとコンクリート1m<sup>3</sup>中のセメント量を一定にするという要求を充たした場合の一例は第1表に示すとおりである。これによれば、貧配合ではかえつて強度の増す場合もあることがわかる。

第1表 AEコンクリートと無気泡コンクリート圧縮強度の比較

| 連行空気量 % | コンクリート1m <sup>3</sup> 中のセメント量 |        |        |
|---------|-------------------------------|--------|--------|
|         | 250 kg                        | 300 kg | 360 kg |
| 2       | 107                           | 97     | 93     |
| 4       | 107                           | 92     | 85     |
| 6       | 103                           | 84     | 75     |
| 8       | 94                            | 76     | 65     |

(日本セメント技術協会コンクリート講習会テキストより)

(ヘ) 弾性係数は水セメント比、空気量と逆に変化する。即ち水セメント比が同じならば、連行空気量が増すにつれて弾性係数は減少する。

(ト) コンクリートの単位重量は連行空気量に正比例して減少する。しかし普通にAEコンクリートとして用

いる空気量3~5%の範囲では殆んど問題とするにたりない。

以上のように、利点もあり欠点もある。使用するAE剤の量、コンクリートの配合比等を慎重に計画しないと欠点ばかりが強調されて失敗を記録することになる。

#### 4. 発生する空気量は何によつて影響されるか。

同量のAE剤を用いても、そのときの現場条件によつて、コンクリートに連行される空気量は大巾に変化するものである。この発生空気量に影響をあたえる主な事項を列挙すると次のとおりである。

(イ) コンクリート中の砂の量が増すと発生空気量が増加する。

(ロ) 砂の粒度分布中、細いもの(0.6~0.3mm)が増すと空気量が増加する。

(ハ) 粗砂は空気を連行しこれを保持することが困難である。

(ニ) 碎石類は丸味のある砂利よりも発生空気量が多い

(ホ) 早強セメントは空気を連行し難く、多量のAE剤を用いなければならない。

(ヘ) 軟練りコンクリートはかた練りでスランブの低いものより多くの空気を連行する。

(ト) 機械練りによる場合は手練りによる場合よりも空気が多く発生する。

(チ) ミキサーにもそれぞれ個性があり、ミキサー毎に空気発生能力が異なる。建設省山田順治氏の実験ではミキサーの容量が大きくなる程、発生空気量が多くなっている。

(リ) 混合時間が増すにつれて発生空気量は増してゆくが、あまり長く混合していると空気量は減ってくる。

(ヌ) ミキサーを出て打込終る迄に空気量は少し散逸する。(約0.25%) 又振動をかけると、0.6~0.7%のエアの散逸がある。故にミキサーから出た直後はこれだけ空気量を増しておかねばならない。

(ル) 温度が高くなる程、空気が発生し難い。例えば7°Cの時の連行空気量は21°Cより4%多く、55°Cでは21°Cの時より25%少い由である。

以上は主として米国で実験された資料に基くものであつて、日本の骨材ではかなり違つた結果が出ることも予想される。又、この他にも種々の事項が考えられる。例えば、砂が湿っている時、(イナデットした砂を用いたとき等)、発生空気量が異常に少なかつた事例も体験しているが、僅かなデーターでは何とも判定できないので上には記載しなかつた。要はあくまで現場のコンクリートについて実地に空気量を測定し、必要な処置を採ることが第一で、「このAE剤、幾c.c.を用いると発生空気量、何%」等と公式的に考えないことが大切である。

## 5. AEコンクリートの調合比はどうしてきめるか。

まず適当な空気量を決めることである。前記のように耐久性の要求から必要な空気量を4～6%と大雑把に定めたが、実際にはこれは骨材粒の大きさによつて変つてくるものなのである。即ち砂利の最大寸法が大きいと一定の要求を充すコンクリートに要するセメント・ペーストの量が少い。したがつてコンクリート全容積に対する空気量は少くてよいことになる。アメリカで推奨されている砂利寸法と適当な空気量の関係は第2表のとおりである。

第 2 表

| 砂利の<br>最大寸法<br>(mm) | 15          | 25            | 30            | 40            | 60          | 80            | 150           |
|---------------------|-------------|---------------|---------------|---------------|-------------|---------------|---------------|
| 適当な<br>空気<br>%      | 6<br>±<br>1 | 4.9<br>±<br>1 | 4.5<br>±<br>1 | 4.2<br>±<br>1 | 4<br>±<br>1 | 3.7<br>±<br>1 | 3.2<br>±<br>1 |

建築で単にウオーカビリティの要求からAE剤を用いるときは空気量3～3.5%でよい。こうして定められた量によつて連行された空気はボール状の微砂として働きウオーカビリティが増すので、普通のコンクリート配合比を「発生空気量に応じて水量と砂量を減少し、強度の減少を極力抑え、且、施工上、耐久上の要求を満足するコンクリートとする。」という原則によつて調節し、AEコンクリートの適当な配合比を見出すことが可能となる。詳細はセメント技術協会のパンフレット中の「空気連行コンクリートの知識」「コンクリート配合の設計」の2冊、及び京都大学近藤教授が翻訳された米国開拓局の「コンクリート便覧」に記述されているから、是非、参照されたい。

## 6. 施工上注意すべき事項

AE剤の使用量はセメント1袋当り20c.cとか、30c.cとかいう微量なのが通常であるから、計量は相当、厳密にしないと発生空気量に大きい影響を与える。この条件を案にするため削除に、AE剤を10%以下にうすめバッチの使用量を多くする。こうしておくとし計量が少し間違つても結果に与える影響は少くなる。但しうすめたものを用いたからといって、計量が不正確でよいわけではない。AE剤の正確な計量のために種々の分配計量器（デスペンサー）が考案されているから、これらを研究して、現場所在の資材で適当な計量装置を製作して使用するのがよいと考えられる。

4. で説明したように砂の粒度は空気発生量に大きい影響があるから、AEコンクリート施工の時は普通コンクリート施工の時より一層、砂の粒度について留意しなければならない。

パイプレーターを用いて締固めをするときには、過度にならないように注意しなければならない。過度の振動は型枠の表面にエアーを集め、種々面白くない現象を生じ

る。AEコンクリートの振動時間は普通コンクリートにたいするものに比し、25～40%でよいという研究もある。

なお、前に説明したように空気量は種々の条件によつてかわるので施工中、頻繁にコンクリート中の空気量を測る必要がある。国鉄では2時間に1回の測定を要求されている。測定方法については次節で説明する。

## 7. 生コンクリート中の空気量測定方法

測定方法は3大別される。第一の方法はコンクリート諸材料の比重、使用量を厳密に測定してコンクリート中に全然、空隙がないという仮定によつてコンクリートの理論重量を算出し、これと実際に測つたコンクリートの重量を比較して空気量を定める方法で重量法と呼ばれる。

第二はコンクリートの一定量を容器に入れて回転等をあたえ、コンクリート中の空気をすつかり排出させ、その後最初の量になるまでアルコール等を加え、その量によつて空気量を知らうとするもので容量法と呼ばれる。以上、二方法は現場の測定法としてはやゝ難色があり広く用いられていない。

第三の方法はコンクリートの一定量を容器に入れ、これに手押しポンプによつて圧力を加え、その場合の容積の減少からボイルの法則によつてコンクリート中の空気量を推定しようとするもので圧力法と呼ばれ、優秀な測定器具が考案されていて現場で広く応用される。

測定器具の一つの方式はワシントン型と呼ばれ、小さい気密気室の圧力降下から、すぐ目盛りでコンクリート中の空気量が出るように考案されたもので水を用いる必要がない。（島津製作所、前川試験器製作所等で試作。）

他の一方式はメンゼル型と呼ばれるもので、コンクリートの上に水を注入し、これを介して圧力を加え、水面の下りによつて、直ちにコンクリート中の空気量が読み取れるように工夫されている。水式とも呼ばれる。（円井製作所、前川製作所等で製造。）

又、以上二方式の中間型即ちワシントン型の原理で水を使用するものもある。（米軍プレッシャーメーター型円井製作所に於て試作。）

以上の測定器はいづれも、その使用にあたつてかなり熟練しないと一定の結果が得難いようである。AEコンクリート施工者は予め、これらの器具について充分の研究を積んで置く必要がある。

## 8. 建築に用いられたAEコンクリート施工の実例

### (イ) 総理府統計局庁舎のコンクリート工事

これは建設省建築研究所の報告によるもので、使用セメントは秩父セメント（4週圧縮強度303kg/cm<sup>2</sup>）、砂は多摩川（粗粒率2,89）、砂利も多摩川（粗粒率7.15）で、AE剤としてはプロテックス1:水46の溶液をセメント1袋当り1110c.c.用いた。試験結果は第3

表のとおりである。

第 3 表

| 区 分                               | 普通コン<br>クリート | AEコンク<br>リート (1) | AEコンク<br>リート (2) |
|-----------------------------------|--------------|------------------|------------------|
| 標 準 調 合                           | 1:2.0:3.2    |                  | 1:1.9:3.2        |
| 水セメント比(%)                         | 70           | 65               | 66               |
| ス ラ ン プ (cm)                      | 21.8         | 22.0             | 23.0             |
| 空 気 量 (%)                         | 0.76         | 3.2              | 4.08             |
| 7 日 程 度<br>(kg/cm <sup>2</sup> )  | 107.0        | 93.0             | 79.2             |
| 28 日 強 度<br>(kg/cm <sup>2</sup> ) | 178.5        | 161.3            | 147.1            |
| 1 立米当りセメ<br>ント使用量                 | 6.25袋        | 6.2              | 6.12             |

(ロ) ヴィンソル・レヂンに関する実験

当組東京支店のデーターである。使用セメントの強度が低いため、全般の強度が非常に低くなっているが一つの参考資料としてみられたい。使用セメントは磐城セメント(4週強度223kg/cm<sup>2</sup>)、砂は2.5mm以下砂利は5mm以上-25mm以下であつて、AE剤としてはヴィンソルレヂン2%の中和溶液を用いた。結果は第4表のとおりである。

第 4 表

| コンクリート種別                                    | No. 1     | No. 2     | No. 3     |
|---------------------------------------------|-----------|-----------|-----------|
| 重量 調 合 比                                    | 1:2.6:2.8 | 1:2.5:2.8 | 1:2.4:2.8 |
| 水セメント比%                                     | 65        | 53        | 52        |
| ス ラ ン プ (cm)                                | 21        | 21        | 19        |
| セメント1袋当<br>りヴィンソル2<br>%中和液(c.c.)            | 0         | 300       | 600       |
| 空 気 量 (%)                                   | 0.5       | 4.0       | 9.5       |
| コンクリート1m <sup>3</sup><br>に要するセメ<br>ント量 (kg) | 334       | 325       | 321       |
| 4 週 強 度<br>(kg/cm <sup>2</sup> )            | 136.6     | 121.4     | 88.3      |

(ハ) ダレックス使用の実例

大阪市内某現場の例で、使用セメントは大阪窯業セメント、砂利は揖保川(粗粒率7.23)、砂は淀川(粗粒率3.2)であつた。標準調合比は1:2.64:3.06、水セメント比は60%で、AE剤(ダレックス)をセメント1袋当り30c.c.加えた場合のスランプは約20cmであつた。最初の施工時、

第 5 表

| セメント1袋当り<br>ダレックス量 | 空気量  |
|--------------------|------|
| 34 c.c.            | 6.5% |
| 30 "               | 5.9% |
| 27.5 "             | 3.8% |

現場で空気の測定をした所、第5表のとおりになつたので、AE剤の使用量を27.5ccと定めた。これだけのAE剤を混入した

コンクリートの強度は同じ水セメント比の普通コンクリートに比し、約2割位低かつた。

9. 結 び

前節の諸例をみられて判明するように、建築コンクリートにAE剤を用いた場合の効果は数字の上に顕著に出ていず、むしろ強度の低下等が強調される。しかし、分離、浮き水の減少等、数字にあらわれない効果は著るしく、施工は相当、容易になる。充分、研究して使用したならば、確かにコンクリート施工技术の一つの飛躍をもたらすものと考えられる。又、強度があまり問題とされない箇所、即ち左官用モルタル等に混入すれば施工技术上、経済上面白い結果が得られるのではないかとも考えられるがこの方面の研究資料は全然ない。又、一般施工についても、例えばウォーセクリーター使用の際は何処でAE剤を加えるのが一番、適切であるか等研究を要すべき問題が多々ある。欠点を補ひ、長所を伸ばしてこの新工法を大いに発展させたいものである。

(筆者、大林組研究室)

## 最新の住宅設計と茶道に就て

近頃の直輸入の建築雑誌や新建築紹介雑誌等及家庭雑誌迄も見るに其の住宅の台所と居間又は客間迄も接近以上に交流されて、生活の合理化の喜びと行進が続いている。

そしてそれを日本の住宅にも加味さし度い慾望が私等にも見られるし又外国の模倣に従っているような不安な設計も見られる。

そこで機能の合理化と茶道に就て考へるに、茶道も過去の時代を背景にしてはいけなし現代生活にも変つた面で生きるべきものと信じる。

その意味に於て建築界外の飯島橋司先生の御意見を引用して恐縮だけれどその先生の随想集の一節が非常に面白いので記して見る以下その抜推文である。

茶道は素晴らしく能率的なものであるとおもう。私がそつと横目で睨んだ観測に誤なしとすれば、茶道の能率はおよそ三つの目標を狙つている。

その第一は、如何なる動作を起すにも便宜なところに主客の身構へと器物の処置とをおさめることである。狙うところは起動の能率である。

その第二は、主客の身構へと器物の処置とを、なるだけ危険のないところに安定することである。狙うところは保全の能率である。

その第三は、見て美しくまた共にありて楽しきように主客と器物の扱を運んでゆくことである。狙うところは生活の能率である。これは極めて高次の能率である。

以上が先生の「神さまと碁をうつ」の随筆集にある一駒である。

近頃ひやみに東洋の手法が見受けられる外国のデザイナーに、いつもしてやられる私等にとつて今一度静かに考へて、アイデアの参考にもなる一例と思う。

形而下の物体の問題を形而上的なものと交流して機能の合理化を計画するのが建築家であり造型文化の独創的立場として世界に尽す私等であり度いと考える。

1951. 5. 20 X 生 記

## 皇居の家と庭



中野 順次郎

今年の2月14日は近來稀な大雪だった。その日に私ははからずも皇居を見学する機会に恵れた。もちろん私1人では無く、当時東京の各大学で教育の研究に参加していた多数の友人達と一緒にであつたが、私にすれば生れてはじめてのことである。普通の場所とちがつて、長い間私共の想像を許さなかつた場所であるだけに、先づその好奇心をそそられたことも事実である。

その日は午前から降りをはじめたので、約束のお午和田倉に着いた時はもう地面が白くなつていたその中を列をつくつて（と云つても昔の様に兵隊さんの行軍の如くではなく）ぞろぞろと宮内府の後を廻つて、坂を登るところから見学をはじめた。かなり急な坂道を歩いて、広い平らなところへ出るまでには、大きな樹木があり、深い谷があり、まるで森の中の広い道を歩いた様な気分だ、これが大東京の真中にあるとは思えられない程深山幽谷的であつたように思ふ。

この印象はそれから後ずつと見学している間、どの場所に於ても、変りがなかつた。今もつて私の頭に残っていることは、随分広いところ、大きな樹木に包まれた森の様なところ。この二つの印象が最も深い。

さてその日は、陛下が午後の2時にお庭へお出ましになるということであつたので、私共はその予定された広い平地のところでお待ちすることにした。

余りに降りつづけるので、或はど

うかと、内心氣づかわぬでもなかつたが陛下は正に時間通りお出になつた洋傘をさしてオーバーにソフト帽誰か1人御一緒にあつたきりであつた。

雪の中を歩いて、樹々の茂つている路のところから御出になつて、御挨拶の言葉も極めて大きな声で非常に御元氣らしく伺えた。その時私共がまるで小学生のように、並んでいたから或は少々形式ばつてはいたように思ふが、親しみのある、温厚さうな方であつたことが、何よりも先づ私共の氣分を和げたとする。

それから賢所の横を通つて一旦二重橋の方に出て例の戦災を受けた表御所の側を通つた。

木造の御殿はすつかり焼けてきれいに片づけられコンクリートの基礎だけが残されている。

面積にすればかなり広い基礎配置だが、その周囲が亦余り広いので、さ程大建築の跡とも思はれない。既に通つて来た賢所はほとんど樹木で被はれた木造のクラシックであるに引かへこの場所は、いはゆる宮城前広場に面した側の表向きで、さぞかし当時は立派でみやびやかであつたことと想像された。再び宮内府の鉄筋コンクリート造5階建の表側に出て、今度は二重橋方面とは反対の場所に廻つたが、ここに呉竹寮があり、料馬舎、御馬車置場等があつた。

陛下の御住宅は見学出来なかつたが呉竹寮をみると平家の普通の建て方で板塀に囲れていた。

馬車は何十台という程あつたよう

に思ふ。黒い漆塗りの如き車体に黄金メッキの唐草模様のデコレーションが鮮かで、その上カットガラスのランプが附いている。

実用価値はともかくとして、さすがに宮殿の中の施設にふさわしい。矢張りやうなものは永く残して置きたいものである。

料馬について少し触れるが、御愛用の白雪はさすがにきれいであつたが、それよりも、どの馬も極めて温和でよくまあ飼ひ馴らされたものだと思ふ。静かでお行儀がよく何かその態度から受ける高貴なものがあるようであつた。

一つ一つのことを挙げてみるととても長くなるがかようにして、私共の見学は約3時間程かかつた。

私は皇居の地形、広さ、建物名称等調べていたわけでないから、このことについて正確な報告は書けないが、とにかく、皇居は地形に高低があり大きな山奥にあるような樹が立ち並んで、その間を道路が大きなカーブで廻っている。建物は一体何処に中心があるのか西洋の宮殿建築の場合の如き計画性があるものとは思はれない。

恰も日本の風景がそうであるように、大きな自然の環境の中に適当に建物が配置されているに過ぎないのではないかと。

私は、よくある宮殿のシンメトリカルな配置、堂々と広場をとつた、例へばヴェルサイユの如きものと比較してみた。全く反対の形式と云へば形式であつた。これが千代田城の

今の皇居の有様である。

さて皇居から出て、帰りに路を真直に東京駅へ向つて歩いたが、近代的な都市の中心。その東京駅とこの皇居が余りに近いという感じである。

ほとんど技巧らしいものを感じな

い皇居の森が、直ぐ近くにある大東京の正面玄関に続き、恰もこれが皇居への玄関口ともなっている関係を偶然でない計画とみたい、と同時にあらゆる近代化を取り入れたこの都心とは凡そ反対の原始的に近い皇居の風趣と、それが同時に日本の姿で

あるような気がして極めて興味深いものがある。

何れにしても、私は矢張りあの皇居を余り手を加えないであのままに出来れば国民の心の森にして置きたい様な気がする。

(筆者 都島工業高等学校教頭)

## — 私 の 建 築 観 —

渡 辺 久 純

洋の東西を問はず何れの時代に於ても其時代の建築の発達は科学的精神的の基礎の上に打ち立てられている事は建築に関心を持つ人なれば、何人も感知される処であります。現代の建築に於てもこの科学的精神的の基礎の基に養はれたる個人の思念亦は其総合である社会的観念により其設計がなされ形づくられ実現されているのであります。先づ科学的換言すると物質的に建築物の实体を分析してみると図表のやうな四角錐を以つて説明する事が出来ると思ひます。平面的に見ると稜の頂点である十字架の交り点仍ち和解こそ建築の円満完成の点と考へる事が出来るのであります。

建築の完成に就ては此四則は忘れてはならないものであり何れの一つもゆるがせに出来ないものであり同時に相対的であります。経済とは合理的に安く造る事であり構造とは丈夫な建物をつくる事であります。外観は内外の総てのみ之を良くする事であります。便宜とは住みよい家とする事であります。従つて何れをも満足し得た建物こそ真の建築と云へるのであります。然し宗教的建物は外観に重点が置かれる結果経済を無視した感がないでもありませんがそれは経済と云ふ事を金銭的にとらわれてみているからでありまして経済とは必しも金銭的なもの丈ではないのであります。

此ピラミッド形を立体的に見ますと経済便宜外観構造の四則は四面相

互につながりがあるのであります。仮りに経済問題を取り上げてみますと経済面を構造面にも外観面にも便宜面にも通じているのであります。仍ち其範圍は全面にわたりこれが一点に会した所が頂点であり完成点であります。経済面は一言で云へば前



に述べました様に安くあげる事でありますが、例を木材に取つてみますとたとへば本の柱でも大樹から製材するのと小木からとるのとで差異があり之を使用するに向があり構造的強度や外観に対する経済に関連しているのであります。亦敷鴨居や梁等に於ける木表木裏や背腹の使い分けは便宜に於ける経済に関連しており木材の樹木よりの性質熟視する事によつて其木材を四則に対していかし得るのであります。

木材によつては木目を風雅にいかし、如何に実用的に取扱ふかは材の

研究成つて初めてなしうるのであります。街に見られる建物の中には外観のみにとらわれているものが多々ありますが以上の四則により科学的に研究された設計こそ真実のものであると思ふのであります。真実でないものはすぐすたれ設計家の個性も表現されずかへつて悪感さへ与へるのであります。真実の活し方と云へるのはやはり総てを知り得て科学的研究をすゝめた其設計家の思念の表現であらねばなりません。勿論設計家の思念は其裏にそれを培ふ処の国民性や風土の問題がありそこに亦我国独特なる想流も生ずるのであつて他面には芸術的趣味嗜好も特異性として発揮しているのであります。

これ等一人一人の思念の集合体が社会の通念となるのでありますから一人一人の設計家が利益のみにとらわれて来ると其社会に出来た建物も粗雑なものとなり災害等に対しての被害も多い事にもなります。これ等の事を思ふ時建築家の責任は重大であり同時に建築家の自悟と向上を計る事が何より第一義とせねばなりません。

建築士問題もこの点より起つたのではないでせうか。単に資格を得る事を名譽的優越感をうるためであつたり或は商業上の商略の一部の爲にのみを目的とする様な事があつてはならないのであります。哲学で宇宙は吾人の写像にして吾人は亦宇宙の生写なりと説いていますが吾人が主で社会は吾人の属でなく社会が主で

吾人は社会の属であると云へるのであります。

亦一面哲学上では直観と云ふ事を説いております。直観に生きよと云ふのは真実に生きよと云ふ事であり仕事そのものに心を統一し融合する事であります。建築家は其の材質や技術の科学的研究と共にその仕事に没頭し其仕事と一体となる事が大切であります。設計家は施主の心を心とし建設家は設計家の心を心とし其建物を生かしてあげる所に真の建築がうまれるのであります。今日アプリゲールと云ふ言語が流行していますが生活の安定をあつから建築に一般に使用されている様な悪意味のものがあつてはならないであります。真の建築は社会人が皆めざめて真の建築に関心を持つて重視して貰ふと同時に建築家は社会の為によりよき住や公館をつくつてあげる様つとめべきであります。

ここに谷口雅春先生著の祈りの科学の一部を掲げ皆さんと其真理を味つてみたいと思ふのであります。或る建築設計家がステラ・テリル・マン女史を訪ねて「この不景気時代に建築設計家も何んとかして飯を食つて行かねばならぬので今後家を建てる人は必ず専門建築設計家に設計をしてもらつて欲しいと建築が許可にならないといふ様にならぬものでせうか」と聞いたのでした。彼の云ふ所によれば家を建てる人の41%は建築設計家の設計に依頼するのであるがこんな状態では建築設計家の約半分は失業状態になつている。これを救はんが為には是非とも家を建てるものが専門の設計家に依頼するやうになりそして建築費の割を設計家に支払ふと云ふやうにならなければならぬ。

現在の状態では家を建てるものはその設計らしいものを建築士建会社から提供してもらつて僅か20弗位しか払はないのである。その為にどの家もどの家も安物の素人じみた醜い設計の家ばかりで都市の美観と云ふ

ものが損はれるのである。この弊害をなくするためには専門家の専門的智識、よき法、よき設計といふものが必要であると云ふのであります。マン女史はこの要求に対して宗教的見地からそれを判断して次の様に答へているのであります。「その考へは一見非常にいゝやうに考へられるけれどもその考への中には家を建てたい人に一層よくサービスしたいといふ考へが含まれていない。自分の生活が楽になりたいといふのが本音であつて家を建てる人の犠牲に於いて自分の生活が楽になりたいと云ふのであります。そして建築費の割を余計家屋所有者に負担させその結果は数弗にも予定したよりも建築費を多くかゝらせる事になるのであります。それはサービスの考へではないので建築請負業者の中には立派な設計を提供して而も安い値段で奉仕しようとする人もあるのであります。それを禁じてしまつて設計専門家のみに独占させるのはサービスの精神にそむくのであり亦自分の好みに従つて設計のできる人にまで自分自身の設計を排斥して建築設計家にそれを依頼しなければならぬと云ふのでは家を建てる人の創造的精神を蹂躪することになります。すべての人の創造精神の自由、サービスの自由といふものを制限して自分達が利益を得たいといふ様な考へは宇宙進歩に貢献する考へではないのであります。何も他をしばらなくとも自分が他に対してサービスする所の無数の機会には常にあるのであります。

設計家は設計家として出来る丈多数の人々に貢献し得べきよき考よき設計を思ひだして自分の生活や職業の安全の為ではなく人の幸福のためにそれを公表するならばその設計を使はしてほしいといふ人達は無数に現はれて来て結局その設計家は富むことになるのであります。」と女史は答へたのであります。彼は其後よき設計を思ひついたのでした。そして彼はその思ひついたよき考へを実

施したのであります。すると彼は今まで一ヶ月儲けた程の金が一日の中に流れこんで来るやうになり彼の事業は際涯もなく拡つて行く様になつたといふのであります。何故にこんな事が起つたか吾々の住んでいる宇宙は永遠に発達し膨脹する宇宙であり吾々はその宇宙の一部なのであります。そしてその部分は全体と同等でないといふ事はあり得ないとマン女史は説いているのであります。

これに対して谷口先生は猶附言していただけるのであります。富ならず他の人々の賞讃や感謝をうけるものは自分の行為、性格、サービス等によつてよき代価を支払へば支払ふ程それを受けることが出来るものであり、もし吾人が人から哀れみをうけたり嘲笑をうけたりしたいと思ふならば信念のない仕事をして悔いてその仕事の失敗について弁解ばかりしておればやがてその求むる哀れみや嘲笑と与へられるのであると。

多くの人々は外に何かの力を求める。協力者を外に求める。資本金を外に求める。自分の願を実現する所の団体を外に求める。しかしその外の力を求め乍ら受ける事が出来ないであります。自分の欲するやうに協力者が動いてくれない。自分の欲するやうに資金が集まらない。自分の欲するやうに団体が働いてくれない結局外に力はあるが其力を受け如何にして支配し如何にして吾がものとするかを知らない。それは外をたよつて内なる自分自身の心性をたよらないからではないでせうか。自分自身の心性にたよらないのは自信がないからであり自信を得るには先づ道義の精神にいき自然の法則に従ひ、科学的精神的心の練磨とその事業に対する熱中こそ真の建築も其人の風格も亦真の道徳も生れて来て、災害にも動じない信念のある建物が出来るのであると信じて止まないものであります。

(筆者 光風工業高等学校教官)

建築積算便覧 (第15回) 木材石数表 (其の五) (単位……石)

| 寸 法 (尺) |      | 長サ<br>5.0尺 | 6.6尺   | 10.0尺  | 13.2尺  | 20.0尺  | 26.4尺  | 30.0尺  |
|---------|------|------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 厚       | 巾    |            |        |        |        |        |        |        |
| .55     | .90  | 0.2475     | 0.3267 | 0.4950 | 0.6534 | 0.9900 | 1.3068 | 1.4850 |
|         | .95  | 0.2613     | 0.3449 | 0.5225 | 0.6897 | 1.0450 | 1.3792 | 1.5675 |
|         | 1.00 | 0.2750     | 0.3630 | 0.5500 | 0.7260 | 1.1000 | 1.4520 | 1.6500 |
|         | 1.10 | 0.3025     | 0.3992 | 0.6050 | 0.7986 | 1.2100 | 1.5972 | 1.8150 |
|         | 1.20 | 0.3300     | 0.4356 | 0.6600 | 0.8712 | 1.3200 | 1.7424 | 1.9800 |
|         | 1.30 | 0.3575     | 0.4719 | 0.7150 | 0.9438 | 1.4300 | 1.8876 | 2.1450 |
|         | 1.40 | 0.3850     | 0.5082 | 0.7700 | 1.0164 | 1.5400 | 2.0328 | 2.8100 |
|         | 1.50 | 0.4125     | 0.5445 | 0.8250 | 1.0890 | 1.6600 | 2.1780 | 2.9750 |
| 60      | .60  | 0.1800     | 0.2376 | 0.3600 | 0.4750 | 0.7200 | 0.9500 | 1.0800 |
|         | .65  | 0.1950     | 0.2574 | 0.3900 | 0.5148 | 0.7800 | 1.0296 | 1.1700 |
|         | .70  | 0.2100     | 0.2772 | 0.4200 | 0.5544 | 0.8400 | 1.1038 | 1.2600 |
|         | .75  | 0.2250     | 0.2970 | 0.4500 | 0.5940 | 0.9000 | 1.1880 | 1.3500 |
|         | .80  | 0.2400     | 0.3168 | 0.4800 | 0.6336 | 0.9600 | 1.2672 | 1.4400 |
|         | .85  | 0.2550     | 0.3366 | 0.5100 | 0.6732 | 1.0200 | 1.3464 | 1.5300 |
|         | .90  | 0.2700     | 0.3564 | 0.5400 | 0.7128 | 1.0800 | 1.4256 | 1.6200 |
|         | .95  | 0.2850     | 0.3762 | 0.5700 | 0.7524 | 1.1400 | 1.5048 | 1.7100 |
|         | 1.00 | 0.3000     | 0.3960 | 0.6000 | 0.7920 | 1.2000 | 1.5840 | 1.8000 |
|         | 1.10 | 0.3300     | 0.4356 | 0.6600 | 0.7128 | 1.3200 | 1.6424 | 1.9300 |
|         | 1.20 | 0.3600     | 0.4752 | 0.7200 | 0.9504 | 1.4400 | 1.9008 | 2.1600 |
|         | 1.30 | 0.3900     | 0.5148 | 0.7800 | 1.0296 | 1.5600 | 2.0992 | 2.3400 |
|         | 1.40 | 0.4200     | 0.5554 | 0.8400 | 1.1108 | 1.6800 | 2.2216 | 2.5200 |
|         | 1.50 | 0.4500     | 0.5940 | 0.9000 | 1.1880 | 1.8000 | 2.3760 | 2.7000 |
| 65      | .65  | 0.2113     | 0.2789 | 0.4225 | 0.5577 | 0.8450 | 1.0154 | 1.2675 |
|         | .70  | 0.2275     | 0.3003 | 0.4550 | 0.6006 | 0.9100 | 1.2012 | 1.3650 |
|         | .75  | 0.2438     | 0.3218 | 0.4875 | 0.6435 | 0.9750 | 1.2870 | 1.4625 |
|         | .80  | 0.2600     | 0.3432 | 0.5200 | 0.6864 | 1.0400 | 1.3728 | 1.5600 |
|         | .85  | 0.2763     | 0.3647 | 0.5525 | 0.7293 | 1.1050 | 1.4586 | 1.6575 |
|         | .90  | 0.2925     | 0.3861 | 0.5850 | 0.7722 | 1.1700 | 1.5444 | 1.7550 |
|         | .95  | 0.3088     | 0.4076 | 0.6175 | 0.8151 | 1.2350 | 1.6302 | 1.8525 |
|         | 1.00 | 0.3250     | 0.4290 | 0.6500 | 0.8580 | 1.3000 | 1.7160 | 1.9500 |
|         | 1.10 | 0.3575     | 0.4719 | 0.7150 | 0.9438 | 1.4300 | 1.8876 | 2.1450 |
|         | 1.20 | 0.3900     | 0.5148 | 0.7800 | 1.0296 | 1.5600 | 2.0592 | 2.3400 |
|         | 1.30 | 0.4225     | 0.5577 | 0.8450 | 1.1154 | 1.6900 | 2.2308 | 2.5350 |
|         | 1.40 | 0.4550     | 0.6006 | 0.9100 | 1.2012 | 1.8200 | 2.4024 | 2.7300 |
|         | 1.50 | 0.4875     | 0.6435 | 0.9750 | 1.2870 | 1.9500 | 2.5740 | 2.9250 |
| .70     | .70  | 0.2450     | 0.3234 | 0.4900 | 0.6468 | 0.9800 | 1.2936 | 1.4700 |
|         | .75  | 0.2625     | 0.3465 | 0.5250 | 0.6930 | 1.0500 | 1.3860 | 1.5750 |
|         | .80  | 0.2800     | 0.3696 | 0.5600 | 0.7392 | 1.1200 | 1.4784 | 1.6800 |
|         | .85  | 0.2975     | 0.3927 | 0.5950 | 0.7854 | 1.1900 | 1.5708 | 1.7850 |
|         | .90  | 0.3150     | 0.4158 | 0.6300 | 0.8316 | 1.2600 | 1.7732 | 1.8900 |
|         | .95  | 0.3325     | 0.4389 | 0.6650 | 0.8778 | 1.3300 | 1.7556 | 1.9950 |
|         | 1.00 | 0.3500     | 0.4620 | 0.7000 | 0.9240 | 1.4000 | 1.8480 | 2.1000 |
|         | 1.10 | 0.3850     | 0.5082 | 0.7700 | 1.0164 | 1.5400 | 2.0328 | 2.3100 |
|         | 1.20 | 0.4200     | 0.5544 | 0.8400 | 1.1038 | 1.6800 | 2.2176 | 2.5200 |

| 寸 法 (尺) |      | 長サ<br>5.0尺 | 6.6尺   | 10.0尺  | 13.2尺  | 20.0尺  | 26.4尺  | 30.0尺  |
|---------|------|------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 厚       | 巾    |            |        |        |        |        |        |        |
| .70     | 1.30 | 0.4550     | 0.6036 | 0.9100 | 1.2012 | 1.8200 | 2.4024 | 2.7300 |
|         | 1.40 | 0.4900     | 0.6463 | 0.9300 | 1.2936 | 1.9600 | 2.5372 | 2.9400 |
|         | 1.50 | 0.5250     | 0.6930 | 1.0500 | 1.3360 | 2.1000 | 2.7720 | 3.1500 |
| .75     | .75  | 0.2313     | 0.3713 | 0.5625 | 0.7425 | 1.1250 | 1.4850 | 1.6875 |
|         | .80  | 0.3000     | 0.3960 | 0.6000 | 0.7920 | 1.2000 | 1.5340 | 1.8000 |
|         | .85  | 0.3188     | 0.4203 | 0.6375 | 0.8415 | 1.2750 | 1.6330 | 1.9125 |
|         | .90  | 0.3375     | 0.4455 | 0.6750 | 0.8910 | 1.3500 | 1.7820 | 2.0225 |
|         | .95  | 0.3563     | 0.4703 | 0.7125 | 0.9405 | 1.4250 | 1.8310 | 2.1375 |
|         | 1.00 | 0.3750     | 0.4950 | 0.7500 | 0.9900 | 1.5000 | 1.9300 | 2.2500 |
|         | 1.10 | 0.4125     | 0.5445 | 0.8250 | 1.0390 | 1.6500 | 2.1780 | 2.4750 |
|         | 1.20 | 0.4500     | 0.5940 | 0.9000 | 1.1880 | 1.8000 | 2.3760 | 2.7000 |
|         | 1.30 | 0.4875     | 0.6435 | 0.9750 | 1.2870 | 1.9500 | 2.5740 | 2.9250 |
|         | 1.40 | 0.5250     | 0.6930 | 1.0500 | 1.3360 | 2.1000 | 2.7720 | 3.1500 |
|         | 1.50 | 0.5625     | 0.7421 | 1.1250 | 1.4841 | 2.2500 | 2.9682 | 3.3750 |
| .80     | .80  | 0.3200     | 0.4224 | 0.6400 | 0.8448 | 1.2800 | 1.6896 | 1.9200 |
|         | .85  | 0.3400     | 0.4488 | 0.6800 | 0.8976 | 1.3600 | 1.7952 | 2.0400 |
|         | .90  | 0.3600     | 0.4752 | 0.7200 | 0.9504 | 1.4400 | 1.9003 | 2.1600 |
|         | .95  | 0.3300     | 0.5016 | 0.7600 | 1.0032 | 1.5200 | 2.0064 | 2.2800 |
|         | 1.00 | 0.4000     | 0.5230 | 0.8000 | 1.0560 | 1.6000 | 2.1120 | 2.4000 |
|         | 1.10 | 0.4400     | 0.5308 | 0.8800 | 1.1616 | 1.7600 | 2.3232 | 2.6400 |
|         | 1.20 | 0.4800     | 0.6336 | 0.9600 | 1.2672 | 1.9200 | 2.5344 | 2.8800 |
|         | 1.30 | 0.5200     | 0.6364 | 1.0400 | 1.3728 | 2.0300 | 2.7456 | 3.1200 |
|         | 1.40 | 0.5600     | 0.7392 | 1.1200 | 1.4784 | 2.2400 | 2.9568 | 3.3600 |
|         | 1.50 | 0.6000     | 0.7920 | 1.2000 | 1.5340 | 2.4000 | 3.1680 | 3.6000 |
| .85     | .85  | 0.3613     | 0.4769 | 0.7225 | 0.9537 | 1.4450 | 1.9074 | 2.1675 |
|         | .90  | 0.3825     | 0.5049 | 0.7650 | 1.0093 | 1.5300 | 2.0196 | 2.2950 |
|         | .95  | 0.4033     | 0.5330 | 0.8075 | 1.0659 | 1.6150 | 2.1318 | 2.4225 |
|         | 1.00 | 0.4275     | 0.5610 | 0.8550 | 1.1220 | 1.7100 | 2.2440 | 2.5650 |
|         | 1.10 | 0.4675     | 0.6171 | 0.9350 | 1.2342 | 1.8700 | 2.4634 | 2.8050 |
|         | 1.20 | 0.5100     | 0.6734 | 1.0200 | 1.3468 | 2.0400 | 2.6936 | 3.0600 |
|         | 1.30 | 0.5525     | 0.7293 | 1.1050 | 1.4586 | 2.2100 | 2.9172 | 3.3150 |
|         | 1.40 | 0.5950     | 0.7854 | 1.1900 | 1.5708 | 2.3800 | 3.1416 | 3.5700 |
|         | 1.50 | 0.6375     | 0.8415 | 1.2750 | 1.6330 | 2.5500 | 3.3660 | 3.8250 |
| .90     | .90  | 0.4050     | 0.5346 | 0.8100 | 1.0692 | 1.6200 | 2.1334 | 2.4300 |
|         | .95  | 0.4275     | 0.5643 | 0.8550 | 1.1286 | 1.7100 | 2.2572 | 2.5650 |
|         | 1.00 | 0.4500     | 0.5940 | 0.9000 | 1.1880 | 1.8000 | 2.3760 | 2.7000 |
|         | 1.10 | 0.4950     | 0.6534 | 0.9900 | 1.3068 | 1.9300 | 2.6136 | 2.9700 |
|         | 1.20 | 0.5400     | 0.7123 | 1.0300 | 1.4256 | 2.1600 | 2.8512 | 3.2400 |
|         | 1.30 | 0.5850     | 0.7722 | 1.1700 | 1.5444 | 2.3400 | 3.0888 | 3.5100 |
|         | 1.40 | 0.6300     | 0.8316 | 1.2600 | 1.6632 | 2.5200 | 3.3264 | 3.7800 |
|         | 1.50 | 0.6750     | 0.8910 | 1.3500 | 1.7820 | 2.7000 | 3.5640 | 4.0500 |
| .95     | .95  | 0.4518     | 0.5957 | 0.9025 | 1.1913 | 1.8050 | 2.3326 | 2.7075 |
|         | 1.00 | 0.4750     | 0.6270 | 0.9500 | 1.2540 | 1.9000 | 2.5030 | 2.8500 |
|         | 1.10 | 0.5225     | 0.6872 | 1.0450 | 1.3744 | 2.0900 | 2.7480 | 3.1350 |

| 寸<br>厚 | 法(尺)<br>巾 | 長さ     |        |        |        |        |        |        |
|--------|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
|        |           | 5.0尺   | 6.6尺   | 10.0尺  | 13.2尺  | 20.0尺  | 261.4尺 | 30.0尺  |
| 95     | 1.20      | 0.5700 | 0.7524 | 1.1400 | 1.5048 | 2.2800 | 3.0096 | 3.4200 |
|        | 1.30      | 0.6175 | 0.8151 | 1.2350 | 1.6302 | 2.4700 | 3.2604 | 3.7050 |
|        | 1.40      | 0.6650 | 0.8778 | 1.3300 | 1.7556 | 2.6600 | 3.5112 | 3.9900 |
|        | 1.50      | 0.7125 | 0.9405 | 1.4250 | 1.8810 | 2.8500 | 3.7620 | 4.2750 |
| 1.00   | 1.00      | 0.5000 | 0.6600 | 1.0000 | 1.3200 | 2.0000 | 2.6400 | 3.0000 |
|        | 1.10      | 0.5500 | 0.7260 | 1.1000 | 1.4520 | 2.2000 | 2.9040 | 3.3000 |
|        | 1.20      | 0.6000 | 0.7920 | 1.2000 | 1.5840 | 2.4000 | 3.1680 | 3.6000 |
|        | 1.30      | 0.6500 | 0.8580 | 1.3000 | 1.7160 | 2.6000 | 3.4320 | 3.9000 |
|        | 1.40      | 0.7000 | 0.9240 | 1.4000 | 1.8480 | 2.8000 | 3.6960 | 4.2000 |
|        | 1.50      | 0.7500 | 0.9900 | 1.5000 | 1.9800 | 3.0000 | 3.9600 | 4.5000 |
| 1.10   | 1.10      | 0.6050 | 0.7986 | 1.2100 | 1.5972 | 2.4200 | 3.1944 | 3.6300 |
|        | 1.20      | 0.6600 | 0.8712 | 1.3200 | 1.7424 | 2.6400 | 3.4848 | 3.9600 |
|        | 1.30      | 0.7150 | 0.9438 | 1.4300 | 1.8876 | 2.8600 | 3.7752 | 4.2900 |
|        | 1.40      | 0.7700 | 1.0164 | 1.5400 | 2.0328 | 3.0800 | 4.0656 | 4.6200 |
|        | 1.50      | 0.8250 | 1.0890 | 1.6500 | 2.1780 | 3.3000 | 4.3560 | 4.9500 |
| 1.20   | 1.20      | 0.7200 | 0.9504 | 1.4400 | 1.9008 | 2.8800 | 3.8016 | 4.3200 |
|        | 1.30      | 0.7800 | 1.0296 | 1.5600 | 2.0592 | 3.1200 | 4.1184 | 4.6800 |
|        | 1.40      | 0.8400 | 1.1089 | 1.6800 | 2.2178 | 3.3600 | 4.4356 | 5.0400 |
|        | 1.50      | 0.9000 | 1.1880 | 1.8000 | 2.3760 | 3.6000 | 4.7520 | 5.4000 |
| 1.30   | 1.30      | 0.8450 | 1.1154 | 1.6900 | 2.2308 | 3.3300 | 4.4616 | 5.0700 |
|        | 1.40      | 0.9100 | 1.2012 | 1.8200 | 2.4024 | 3.6400 | 4.8048 | 5.4600 |
|        | 1.50      | 0.9750 | 1.2870 | 1.9500 | 2.5740 | 3.9000 | 5.1480 | 5.8500 |
| 1.40   | 1.40      | 0.9800 | 1.2936 | 1.9600 | 2.5372 | 3.9200 | 5.1744 | 5.8300 |
|        | 1.50      | 1.0500 | 1.3860 | 2.1000 | 2.7720 | 4.2000 | 5.5440 | 6.3000 |
| 1.50   | 1.50      | 1.1250 | 1.4850 | 2.2500 | 2.9700 | 4.5000 | 5.9400 | 6.7500 |
| .02    | .05       | 0.0005 | 0.0007 | 0.0010 | 0.0014 | —      | —      | —      |
| .03    | .045      | 0.0007 | 0.0009 | 0.0014 | 0.0018 | —      | —      | —      |
| .04    | .045      | 0.0009 | 0.0012 | 0.0018 | 0.0024 | —      | —      | —      |
| .045   | .07       | 0.0016 | 0.0021 | 0.0032 | 0.0042 | —      | —      | —      |

(註) 1. 本表は単位石を示し、小数下四桁迄として以下切上げとす。

2. 長さ10.0尺及13.2尺を基準とし5.0尺は10尺の1/2、6.6尺は13.2尺の1/2、20尺及30尺は10.0尺の2倍及3倍、26.4尺は13.2尺の石数の1.2倍とす。

3. 本表は少数点下四桁なるも実際は、小数点下三桁とし以下切上げ単石として計算するものとす。

(例) .35角=0.1617石なるを 0.162石とす。

| 板<br>材<br>面<br>積<br>当<br>リ<br>石<br>数 | 単位<br>厚サ(尺) | 平方尺 当リ |        | 面 坪 当 リ |        | m <sup>2</sup> 当リ | 木材一石ノ坪数 |       |
|--------------------------------------|-------------|--------|--------|---------|--------|-------------------|---------|-------|
|                                      |             | 正平方尺   | 延ビ見込   | 正 面 坪   | 延ビ見込   |                   | 正 面 坪   | 延ビ見込  |
|                                      | 厚サ(尺)       |        |        |         |        |                   |         |       |
| 面積当リ                                 | 0.023       | 0.0023 | 0.0026 | 0.0828  | 0.0911 | 0.0251            | 12.07   | 11.00 |
|                                      | 0.03        | 6.0030 | 0.0033 | 0.1030  | 0.1188 | 0.0327            | 9.25    | 8.41  |
|                                      | 0.04        | 0.0040 | 0.0044 | 0.1440  | 0.1584 | 0.0436            | 6.95    | 6.31  |
|                                      | 0.05        | 0.0050 | 0.0055 | 0.1800  | 0.1980 | 0.0545            | 5.55    | 5.05  |
| 石数                                   | 0.06        | 0.0060 | 0.0066 | 0.2160  | 0.2376 | 0.0654            | 4.63    | 4.21  |
|                                      | 0.07        | 0.0070 | 0.0077 | 0.2520  | 0.2775 | 0.0763            | 3.97    | 3.61  |
|                                      | 0.08        | 0.0080 | 0.0088 | 0.2880  | 0.3168 | 0.0872            | 3.47    | 3.16  |
|                                      | 0.090       | 0.0090 | 0.0099 | 0.3240  | 0.3564 | 0.0981            | 3.09    | 2.80  |

# アスファルト防水工事施工上の注意要項

| 種 別                          | 記号 | 要 項                                                                                                        |
|------------------------------|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 防 水 下 地                      | A  | 屋根防水下地は、セメント、コンクリート打ちに於て水勾配を取るを原則とする                                                                       |
|                              | B  | 防水下地はコンクリート上にセメントモルタル（容積調合比）セメント1，砂3，を以つて水勾配に従ひ 厚1.5㎝以上に塗り均す                                               |
|                              | C  | 屋根防水下地にシンダーコンクリートは使用してはならない、（シンダーコンクリートは空隙が多い特徴のため、防水層下にエアーポケットを生じ寒暑により膨脹収縮が起り防水層に悪影響を与へ老化を早め亀裂を生じ漏水の原因となる |
|                              | D  | 屋根に於けるバラベツト其他立上り入隅は3㎝巾に45度角度に施工する。90度又は丸くしてはならない。下図参照                                                      |
| アスファルト<br>プライマー              | E  | 屋根立上り面はいかなる場合にも30㎝以上、防水層が立上げられる様にする                                                                        |
|                              | F  | 屋根立上り面は下図の如く施工する                                                                                           |
|                              | G  | 屋根排水は必ず最大雨量の場合の屋根面積を計算して排水口数及び排水口の太さを決定する                                                                  |
|                              | A  | アスファルト・プライマーは下地モルタルが充分に乾燥したる後、よく清掃して塗布する、（下地が乾いてないとプライマーを塗布しても効果がない）                                       |
| フェルト・ルー<br>フィング、網状<br>ルーフィング | B  | アスファルト・プライマーは揮発性油を50%以上含んでおるため開罐後は直ちに使用すると共に残量ある場合は密閉しておく様にする                                              |
|                              | C  | アスファルト・プライマーの施工中は火気を近づけぬ様に注意する                                                                             |
|                              | D  | アスファルト・プライマーの施工中及び塗布後室内にありては窓を開放しておく                                                                       |
|                              | E  | アスファルト・プライマーは木造の場合は塗布する必要はない                                                                               |
| 一 般 注 意                      | A  | アスファルトにはブロンズアスファルト（防水工専用）ストレート・アスファルト（道路アスファルトモルタル舗床用の2種なり。用途により共に品種（針入度）が多様に表示されており使用の場合は注意を要する           |
|                              | B  | アスファルトは其の熔融に際し220℃以上に加熱せざる様に注意すると共に使用の場合も同温度を保ち施工するを要する                                                    |
|                              | C  | アスファルト・フェルト・アスファルトルーフィングの貼付施工の場合アスファルトは流し貼とする網状ルーフィングの貼付施工の場合は其の前後層のアスファルトは刷毛又はモップを以つて塗布する                 |
|                              | D  | アスファルトは各層共、空隙、気泡のなき様に注意して施工する                                                                              |
| アスファルトル<br>ーフコーチング           | E  | アスファルトの使用量は使用温度を一定させ所定の量を平均させる                                                                             |
|                              | A  | ルーフィングは使用前、両面に附着する粉末を良く落して使用する                                                                             |
|                              | B  | フェルト・ルーフィング、網状ルーフィングの貼付に於ける継目は各層縦横共に6㎝以上重ね合わせる                                                             |
|                              | C  | 各層を通じて重ね合わせを同一箇所に設けぬ様注意する                                                                                  |
| 防 水 保 護 層                    | D  | 総ての出隅入隅には最終層に於て網状ルーフィングを以つて巾20㎝のものを増貼りする                                                                   |
|                              | E  | 排水口、鉄管等の周囲は網状ルーフィングを増貼りして特に注意する                                                                            |
|                              | F  | 各層共空隙、気泡、シワ等なき様平坦に押均し、密着させる                                                                                |
|                              | G  | 雨仕舞は各層順に3㎝～5㎝づつ、延貼りにする                                                                                     |
| アスファルトル<br>ーフコーチング           | A  | 早朝の湿度が施工面に在る場合は気温の上昇を待ちて施工する                                                                               |
|                              | B  | 施工中雨天となりたる場合は直ちに施工を中止する                                                                                    |
|                              | C  | 寒気激しき場合（零下度）は工事中止する。風速激しき場合も又同じ                                                                            |
|                              | D  | 熔融中引火したるアスファルトは質的に変化を起しているので使用を中止する                                                                        |
| アスファルトル<br>ーフコーチング           | E  | 前後降雨がありたる場合は翌日の施工は中止する                                                                                     |
|                              | F  | 地下室の防水に在りては、必ず地下水の排水を必要とする。防水押へが完全に硬化する迄排水を中止してはならない                                                       |
|                              | G  | 防水層押へ保護層施工の場合、防水層をキズ付ぬ様充分に注意する                                                                             |
|                              | A  | 立上り防水押へは原則としてコンクリート打とする                                                                                    |
| アスファルトル<br>ーフコーチング           | B  | 煉瓦積の場合は防水層と間隔2㎝以上あけ其の間隙にモルタルを填充する                                                                          |
|                              | C  | 防水平面押への場合適当なる間隔に目地を切る、目地にはセメント1，砂2程度のモルタルを填充する                                                             |
|                              | D  | 伸縮目地の間隔は2米～3米毎に作り縦横共アスファルト又はアスファルトモルタルを挿入する、クリンカータイルを貼る場合も同じ                                               |
|                              | E  | 地下室の場合はコンクリートの中に鉄筋の挿入し水圧に応じて厚さを決定する                                                                        |
| アスファルトル<br>ーフコーチング           | F  | 水圧小なる場合は煉瓦積も差支へなく、其の場合は1枚積以上とする                                                                            |
|                              | G  | 防水層保護層の厚さは、5㎝以上とする                                                                                         |
|                              | A  | アスファルトコーチングをサツシユ廻りに塗布する場合目地鏝を以つて充分に塗りこむ                                                                    |
|                              | B  | 防湿に使用する場合は、ルーフコーチング中に空気を含ませぬ様、充分に押へ鏝をする                                                                    |

## 耐 酸 アスファルトモルタル

| 種 類             | 配 合 | 配 合 比 率 (重量比)               |               |         |         | 摘 要   |
|-----------------|-----|-----------------------------|---------------|---------|---------|-------|
|                 |     | ブ ロ ン<br>アスファルト             | D/F<br>コンパウンド | 礫 石 粉   | 洗 砂     |       |
| 柱、腰廻り、天井、上部壁、鉄部 |     | 80%—90%                     |               | 10%—20% |         | 塗 装   |
| 同 度 高 キ 個 所     |     |                             | 80%—90%       | 10%—20% |         | 同     |
| 耐 酸 モ ル タ ル 塗   |     | 15%—20%                     |               | 20%—30% | 40%—50% | 25耗以上 |
| 同 度 高 キ 個 所     |     |                             | 20%—25%       | 25%—30% | 40%—45% | 同     |
| 耐 酸 モ ル タ ル 塗   |     | 20%—30%                     |               | 35%—40% | 35%—40% | 20耗以上 |
| 同 度 高 キ 個 所     |     |                             | 25%—35%       | 35%—40% | 35%—40% | 同     |
| 耐 酸 タ イ ル 張     |     | 40%                         |               | 60%     |         | マスチック |
| 同 度 高 キ 個 所     |     |                             | 40%           | 60%     |         | 同     |
| 耐 酸 タ イ ル 地     |     | 80%                         |               | 20%     |         | 流シ詰メ  |
| 同 度 高 キ 個 所     |     |                             | 80%           | 20%     |         | 同     |
| 排 水             |     | M. S. S. アスファルト耐酸パイプ内径 時の敷設 |               |         |         |       |

備考 D/Fコンパウンドは耐酸度に於てブロンアスファルトに比し三倍強の耐酸度を有し（別紙工業試験所報告書参照）而も耐油性なるを以て酸度の高き個所或は耐油を必要とする個所に使用して最も効果的なり。

## 耐 酸 モ ル タ ル 施 工 法

### 使 用 材 料

- ロ、ブロンアスファルトは日本工業規格に合格したる製造所製品にして針入度は10—20或は20—30を可とす
- ハ、礫石粉は白色にして不純物を含まざる 100 番メッシュ通過200番メッシュ通過 60%以上
- ニ、洗砂は清浄なる川砂にして硬質の耐久力あるものにして有機物を含まざるものにして次の規格に依る  
10番メッシュ〜80番メッシュ通過50%〜70%200番メッシュ30%以下

### 加 熱 混 合

乾燥せる礫石粉と洗砂を規定の配合率に依り秤量し摂氏150度以上に加熱混合し別に摂氏160度に加熱溶解せるブロンアスファルト（又はD/Fコンパウンド）を除々に配合量を加へつつ充分攪拌し摂氏180度を超へざる様に注意する

### 舗 設

加熱せる混合材を現場に搬入し直に焼鑊を以て不陸なき様平滑に所定の厚みと規定勾配に敷設し表面は数次焼鑊を掛け充分艶出し磨上とする

接合部其他構造物との接触部分等は予めアスファルト純液を塗布し置き混合材を多量に補給しタンパーを以て充分圧縮し焼鑊にて完全に密着せしむ

其他側壁立上り、ハバキ溝等の個所は適当なる型板を用ひて施工し又施工後冷却硬化するまで損傷せぬ様注意を要する。



カタログ贈呈

# 建物クリーニングの店

創業30年 古い歴史と新しい技術



ビルディングのクリーニング工事  
古い住宅が新築同様になる 美素工事  
新築住宅にお手入れのいらいぬ美素工事

株式会社 美素工業所

大阪市東區瓦町（堺筋）三和ビル三階 電話北濱⑥5888番

ある文化人の会合の話題に登つた中に日本が世界から非常に遅れているものの一つに火災予防が一番おくれていると云う話が出たそうである。

そして内田先生が過日來阪せられし節の歓迎会の席上に於て私等に多くの感銘深き御話の中に此の日本火災学会の創立の御披露があつたのでよく御紹介致す次第である。

日本建築協会 25. 5. 20

## 日本火災学会々則

### 第一章 総 則

第一条 本会は火災現象、防火及び消火に関する研究調査を行い、火災による損害の軽減を図ることを以て目的とする。

第二条 本会は日本火災学会と称する。

第三条 本会は事務所を東京都におく。(当分の間東京都文京区本郷本富士町東京大学第一工学部綜合試験所岡島氣付とする。)

第四条 本会は第一条の目的を達するため次の事業を行う。

1. 火災現象、防火及び消火に関する研究及び調査
2. 講演会、研究会の開催、見学視察の実施。
3. 講習会、懇話会、展覧会等の開催。
4. 会誌及び図書の刊行。
5. 材料、並びに機器製作の指導。
6. 他学会其の他との連絡、協力。
7. その他本会の目的を達するための必要事項。

### 第二章 会 員

第五条 会員を分つて次の三種とする。

(1) 正会員 (2) 名誉会員 (3) 賛助会員

第六条 正会員は火災科学の研究に関心を持つものとする。

第七条 名誉会員は火災科学の発展に寄与し委員会の推薦したものとする。

第八条 賛助会員は個人又は団体で本会の事業を賛助するものとする。

第九条 正会員の会費は年額金 300 円とする。但し学生の場合は 200 円とする。

第十条 名誉会員は会費を必要としない。

第十一条 賛助会員の会費は年額一口金 1,000 円とする

第十二条 会員は本会発行の会誌の配布を受けるものとする。

### 第三章 役 員

第十三条 本会に委員若干名を置き委員全員を以て委員会を組織する。

第十四条 委員は正会員の互選により選出するものとする。

第十五条 委員の任期は 1 年とする。但し重任を妨け

ない。

第十六条 委員はその互選により委員長及副委員長、各 1 名を選出する。

第十七条 委員長は本会を代表し副委員長に事故あるとき、これに代るものとする。

第十八条 本会の重要事項は委員会の議決により行うものとする。委員会は必要の都度開催しその議事は出席委員の 2/3 以上の同意を得て之を決するものとする。

第十九条 本会に規定なき事項で必要な事項については委員会の議を経て之を定めることが出来るものとする

### 日本火災学会役員氏名

|    |                  |       |
|----|------------------|-------|
| 委員 | 前東京大学総長          | 内田 祥三 |
|    | 東京大学工学部長         | 大山松次郎 |
|    | 東京都水道局給水課長       | 岩崎 瑩吉 |
|    | 東京消防庁機械部長        | 大川 鶴二 |
|    | 東京大学工学部綜合試験所助教授  | 岡島慶三郎 |
|    | 早稲田大学理工学部教授      | 沖 巖   |
|    | 東京大学教養学部教授       | 金原 寿郎 |
|    | 国家消防研究所々長        | 小林 辰男 |
|    | 東京大学工学部綜合試験所助教授  | 桜井 高景 |
|    | 中央气象台研修所         | 鈴木清太郎 |
|    | 国家消防庁消防研究所技術課々長  | 宮塚 清  |
|    | 農林省林業試験場々長       | 長谷川孝三 |
|    | 気象研究所々長          | 畠山 久尙 |
|    | 東京大学工学部建築学科教授    | 浜田 稔  |
|    | 損害保険料率算定会火災技術部々長 | 菱田 厚介 |
|    | 建設省建築研究所々長       | 藤田金一郎 |
|    | 慶応大学工学部教授        | 真島 正市 |
| 幹事 | 東京大学工学部綜合試験所     | 泉 富雄  |
|    | 建設省都市局復興課        | 岩間 一郎 |
|    | 建設省建築研究所         | 碓井 憲一 |
|    | 東京大学工学部建築学科      | 梅沢 勝也 |
|    | 建設省住宅局建築防災課      | 太田 泰男 |
|    | 東京消防庁機械部管理課      | 岡 俊生  |
|    | 損害保険料率算定会火災技術部   | 喜多 薫  |
|    | 東京大学工学部綜合試験所     | 斎藤 平藏 |
|    | 中央气象台予報課         | 大道寺重雄 |
|    | 農林省林業試験所         | 武田 京一 |
|    | 東京消防庁予防部調査課      | 塚本 孝一 |
|    | 国家消防庁管理局総務課      | 馬場 義郎 |
|    | 統計数理研究所          | 林 知己夫 |
|    | 国家消防庁消防研究所       | 堀内 三郎 |

## 建築寫眞

ユニヴァース写真工藝社

森 庄 次 郎

大阪市南区箕屋町 4 番地  
(但周防町三休橋筋角)  
電話 南 0240 番

# 各 会 記 録 昭和二十五年度

(総会、評議員会、理事会、部会、各委員会)

## 通 常 総 会

26年1月30日 朝日ビル事務所、出席 13名 監事及評議員選挙の件(別記の通り監事1名、評議員24名を選任した)

顧問推薦の件(藪中一良君推荐議決)

昭和24年度収支決算(承認)

昭和25年度収支予算並更正予算(別表の通承認)

## 評 議 員 会

### 第 1 回

25年5月16日 朝日ビル事務所岩崎甚太郎君外委任状共四十三名出席。

和歌山支部設置の件可決、評議員理事大西幸七君逝去補欠の件、理事に海崎喜美春君を補欠選挙、評議員補欠せざる事に議決した

昭和廿四年度一収支決算承認

### 第 2 回

25年11月23日 朝日ビル本会事務所 出席 委任状共36名

議案 第1号 細則12条に依る評議員選出数決定の件(別表の通本部支部定数を議決した)

第2号 予算更正の件(主計別表説明後原案通承認議決した)

第3号 顧問推薦の件(定款第28条2項により理事会推薦の藪中一良君を推薦議決した)

第4号 理事辞任につき補欠選挙の件(鈴木一幸長尾清一両君辞任申出を承認し補欠選挙は行はざる事を議決した)

第5号 25周年記念勘定を一般事業費に振替の件(記念勘定 ¥ 58,422.94を一般事業及補填準備に振替組入を承認議決)

### 第 3 回 (26年度新評議員会)

26年3月29日 朝日ビル事務所 出席委任状共47名

議案 第1号 議長及副議長互選の件(詮衡委員制を以て議長に河合貞一郎君副議長に津村重一君を選挙した)

本日の仮議長を互選の結果岡田孝男君を推し同君議長席についた。

第2号 役員重任に関する件(理事会提案に係る綜合部門大林芳郎、鈴木一幸、錢高輝之竹中鍊一藤木正一五君が選出された場合

重任する事を承認)

第3号 副会長及理事選任の件(詮衡委員制により別紙の通り選任した)

第4号 昭和26年度収支予算案(別表原案通り承認議決)

第5号 創立35周年記念事業の件及予算案(両案共原案通り議決)

## 理 事 会

### 第 1 回

25年4月12日 朝日ビル事務所 会長外21名出席下記協議した。

申継項検討、理事分掌決定、定例日決定、理事会五名以上議事進行申合、委員会構成の件会員詮衡、前年度決算後の処理方、常務理事申出事項

### 第 2 回

5月4日 朝日ビル事務所 尾崎理事外8名出席 委員会委員委嘱の件、部会構成の件、大西理事逝去補欠に関する件、和歌山支部設立申出の件、評議員会開催の件、名誉正会員池田実君逝去に関する件、兵庫建設工業組合30年記念及職員慶事に祝意表する件、会員詮衡、諸報告等協議

### 第 3 回

6月1日 朝日ビル事務所、竹腰会長外8名出席

日本学術会議申越に係る学士院会員推薦の件、和歌山支部規程承認の件、近畿工業高等学校連盟展覧会後援の件、顧問推薦の件、職員昇給並賞与の件、会員詮衡、諸報告等協議す。

### 第 4 回

7月6日 朝日ビル事務所、竹腰会長外10名出席 下記議事報告を了した。

理事辞任申出の件、近畿建築法規委員会特設学会支



建設 J.O.J. 金物  
「ドアハンガー」  
工場・倉庫・ガレージ  
の扉に御使用を御奨  
め致します。  
吊下げ重量  
1号-60kg 2号-100-kg  
(全国有名金物)  
店にあります

J.O.J. 印ドアハンガーは車軸の周囲は鋼腕  
入ローラーベアリング装置になつて居ります  
から丈夫で扉の開閉が軽く取付には吊下げを  
自由に調節できます。  
製造元・大阪・大同鑄造株式会社

部と共同進捗の件、財産目録承認の件、決算には当分未収入を計上せず現金制とする件、編集委員追加の件、会員詮衡、諸報告

#### 第 5 回

8月3日 朝日ビル事務所 井上副会長外5名出席  
下記議事報告を了した。  
中央建築士審議委員推薦の件、災害委員長申越の課税問題検討の件、教育委員長申出のブロック建築講習会開催承認の件、学会近畿支部申越の学校建築講習会後援の件、会員詮衡、諸報告。

#### 第 6 回

8月23日 朝日ビル事務所 会長外13名出席  
中央建築士審議会経過を東畑委員より聴取善処方協議、事務所借室料値上承認の件を協議した。

#### 第 7 回

9月7日 朝日ビル事務所 竹腰会長外8名出席  
朝日ビル借室料値上に関する善後処置の件、職員退職申出承認の件、災害委員会申出の風水害記録会誌掲載承認の件、会員詮衡、諸報告した。

#### 第 8 回

9月28日 朝日ビル事務所 会長外9名出席  
朝日ビル借室料値上に関する経費支弁の件、日本学術会員候補を学会と共同吉田孝二、坂静雄二君推薦方申合せた、風水害講演、学会、土木学会と共催の件、大林、鴻池両理事渡米歓迎会の件、佐竹高橋両理事病氣及職員中風水害につき見舞の件、基準法士法普及につき建設省並民間各団体と共同講演会開催の件、諸報告等協議。

#### 第 9 回

10月10日 建設会館 竹腰会長外6名  
建築士考查問題につき第2回中央建築士審議会の経過を東畑委員より聴取検討、朝日ビル事務所運営方、建材部拡大強化経費支出の件、会員名簿送料の外無償とする件、会員詮衡を議了し諸報告をした。

#### 第 10 回

11月2日 朝日ビル事務所 竹腰会長外8名出席  
評議員会開催の件、新興家具展審査員推薦の件、会員詮衡を議了、会議所議員市村三郎、松村雄吉二氏当選の件外九項報告事項了承。

#### 第 11 回

12月7日 朝日ビル事務所 大和常務理事外10名出席  
建築講習会開催の件、朝日ビル事務所問題、関西建村会申出の会誌掲載の件次回再検討、事務局員下期賞与支給の件、会員詮衡を協議決定、11分会計報告其他10項報告了承。

#### 第 12 回

12月26日 会館分室 竹腰会長外8名出席  
創立35年記念事業の件次回再検討、臨時評議員会開催の件、会誌定価一月号より80円に改正決定の件、新年初理事会11日開催申合、大林副会長鴻池理事帰朝歓迎会開催する件、事務局福永職員退職の件及手当支給承認、諸報告了承。

#### 第 13 回

26年1月18日 朝日ビル事務所 竹腰会長外12名出席  
故井上副会長逝去黙禱後開会、35年記念事業計画案検討、通常総会1月20日開催の件、井上副会長逝去香花料及役員見舞金贈呈の件、大和常務理事病氣につき会及役員一同見舞金贈呈の件、会員詮衡12分会計外2件報告事項承認。

#### 第 14 回

2月8日 朝日ビル事務所 大林副会長外7名出席  
会員詮衡、1月分会計報告外2件承認。

#### 第 15 回

3月8日 朝日ビル事務所 会長外7名出席  
定時評議員会開催の件、25年度收支決算に未収入計上せざる事、26年度予算編成大綱方針、3月30日記念日催事を5月頃に延期する件、大阪市長に市内路面敷使用につき要請の件、会員詮衡を議了及2分会計状況外2件報告事項承認。

#### 第 16 回

3月24日 朝日ビル事務所 竹腰会長外6名出席  
綜合部門より申出の役員重任の件検討し来る評議員会提案の件、26年度收支予算案並35年記念事業予算案審議了、事務局託福永喜一、祖川重文解雇及其願末につき検討、大阪市長宛の路面敷使用許可要請の運動経過報告。

#### 第 17 回

3月29日 朝日ビル事務所 竹腰会長外8名出席  
前回提案事項再協議した。

### 都市不燃化促進連合會

本会外11団体が連合の下に23年6月から運動を続けつつある都市不燃化促進問題は之に関する助成法案の国会提出方と其通過につき昨年来其促進に努めている。25年度は4月10日より回を重ねる事数回議を進めているが、其間東京都市不燃化同盟とも連携建議をした。尙26年3月渡辺幹事長、中沢誠一郎、中村綱各幹事は上京建設省、衆議院建設委員会、総司令部等関係先歴訪折衝した。

4月23日 朝日ビルにて 東京不燃化同盟古賀、玉木両理事と本連合会会合連絡協議、今後進行方其他懇談した。

## 管工事部会

25年6月27日 朝日ビル事務所 斎藤久孝外管工部8社  
10名伊藤正文氏外府建築部中野技師等5名出席  
設備に関し基準法に対する意見具申の件を協議し其  
後分科会を数度開き7月11日と14日総委員会協議具  
申案作成其筋に進達した。

## 建材部会

25年5月9日 朝日ビル事務所 日垣理事外部員9名  
出席。大西理事逝去補選の件、幹事長互選事業計画  
等協議

## 技術部門と建材部門連合会

5月18日 朝日ビル事務所 宇賀、徳永、石原設計事  
務所長外建材部、朝日スレート外12社出席  
設計と資材につき意見交換。

## 総合と建材部会

7月20日 朝日ビル事務所 西松建設外綜合部門4社  
村田ガラス外建材部門7社出席  
相互意見交換と連絡を密にした。

## 建材部大会

10月10日 建設会館 竹腰会長、井上副会長、竜沢理  
事列席、山本タイル外業者20余名出席  
意見交換後本部会の拡大強化を計るため関西建材会  
を結成する事を申合せ直に準備に移った。

10月18日 準備会を朝日ビル事務所で開催、西林石  
材外20社出席  
規約案外準備を整え、11月8日大阪建設会館に於て  
関西建材会結成、同会員は全部本部会員たるを以て  
爾今同会を建材部門とし従来よりの諸事業を継続す  
る事とした。

25年2月8日 朝日ビル事務所 協会理事者と部会幹  
事会合、建築と社会誌に建材記事掲載の件を協議。

3月20日 朝日ビル事務所 幹事会 26年度建材部推  
薦協会理事予選及幹事改選、事業計画、総会開催、  
会員獲得方法等協議。

## 建築行政委員会

25年7月5日と7月13日 朝日ビル事務所 稗田委員  
長外出席  
建築基準法政令、省令法案につき検討整備近畿建築  
法規委員会に提出。

## 建材審査委員会

25年4月17日 朝日ビル事務所 置塩委員長外11名出席

塗料エマコート審査につき検討の結果幹事の調査報  
告と実験に基き証明を発する事に内決した。尙他に  
申出中の日本防水剤については分析其他調査を続行  
する事とし西村幹事担当とした。

## 教育委員会

25年5月16日 朝日ビル事務所 委員7名出席  
委員長中野順次郎、副委員長、大倉三郎、堀口甚吉  
君を互選、ブロック建築講習会開催、鋼構造テキス  
ト増刷の件を議す。

5月29日 朝日ビル事務所 中野委員長外3名出席  
小分科会を開きブロック建築講習会開催協議。

7月25日 朝日ビル事務所 中野委員長外3名出席  
災害委員会小泉津村委員と合同協議会を開き大工対  
象講習会及ブロック建築見学の件を協議。

7月23日 朝日ビル事務所 中野委員長外委員  
大阪府五百蔵技師並ブロック建設関係の佐々木式酒  
見式、パスキン、徳祥等業者出席  
講習会細目につき協議直にテキスト作成に着手。

8月21日午後 会勢委員会、住宅委員会、災害委員会  
及教育委員会合同で市内城北公園内建設中の府営ブ  
ロック建築の現場見学約30名参加。

8月21日～24日 4日間都島工業高等学校講堂にて簡易  
耐火構造（ブロック建築）施工の講習会を開く、約  
250名来聴。

## 記念事業に関する準備委員会

25年7月25日 天神橋分室にて開催 星、浅沼、大下  
理事外4名出席

前年より申継に係る創立35周年記念事業立案方につ  
き懇談、事業案並資金募集案を協議。

12月、大下、星、大和理事、於分室会合再協議、ジ  
ェーン台風のため年内委員会設置困難につき26年に  
延期する事とし委員及予算などにつき下検討した。

25年3月29日 理事会に提案、26年度に於て資金募集  
に着手する事を申合せ3月24日評議員会に諮り議決  
実行方を26年度役員会に申継手配した。

スチール サツシュ  
ドアー  
シャッター

オペレーター・伸縮戸・面格子  
設計・製作・修理

日本サツシュ株式会社

大阪市東区高麗橋二丁目九番地  
電話土佐堀④2995.3979番

## 災害委員会

- 25年5月19日 朝日ビル事務所 池田宮彦氏外13名出席  
高橋理事挨拶後、委員長池田宮彦氏副委員長堀口甚吉君を互選、事業分野を地震、風水害、火災、一般の三部門に分ち其幹事分担、事業計画を協議。
- 7月4日 於朝日 鷲尾健三幹事外6名出席  
災害調査、報告は学会など専門的立場の方面に譲る、災害防止を先決とする。防止の根幹は不燃都市促進。不燃化を阻む重大原因は資金難の打開と課税問題。之等政策面は理事会の事業として考慮を促す事を申合せた。取敢ず地質調査表整備をする事を申合せた。
- 7月7日 於分室 津村幹事外3名出席  
一般災害分科会開催、防火地区ブロック建築の事、建物の防災には建築従事者の道義心の昂揚が必要故大工の啓蒙を図る事と知識増進のため之等対象の講習会を催す案等検討。
- 7月18日 於朝日事務所 池田委員長外12名出席  
各分科会協議経過報告後講習会開催。地質調査表資料集蒐方。建築物課税の低減を図る問題等を議した
- 7月26日 於朝日 委員長外  
調査表分科会開催、集蒐方協議。
- 9月6日 於朝日事務所 池田委員長外12名出席  
9月3日突如として起つたジェーン台風、風水害につき緊急下記協議。  
各委員見聞災害状況報告後、浸水、地盤沈下、今後の対策と補強方法等調査研究誌上発表を申合せ夫々分担を決めた。
- 9月29日 於朝日事務所 池田委員長外12名出席  
委員調査の被害写真検分、損害、復旧指数表記録作成の方針近畿大阪以外府県の資料を集める事、災害講演会開催の事等協議
- 9月30日 災害対策講演会開く 於大阪毎日新聞講堂 学会、土木学会、協会合同、坂静雄博士、石原藤次郎博士講師 約200名来聴
- 10月17日 於朝日 記録作成分科会五百蔵委員外5名  
月末迄に原稿集蒐とし万般協議
- 11月20日 於朝日事務所 池田委員長外10名出席  
集蒐資料検討後座談会を開き本委員会の意見の大綱を決める事とした、委員長に経過纏める事依頼。
- 12月5日 於朝日 委員長外8名出席  
記録案検討(26年3月号会誌掲載)
- 12月4日 於 都島工業高等学校講堂 地震常識本委員会作成パンフレット発行につき之が講演会を催した。委員横尾博士講師、PTA教師、生徒、学校関係約72名

## 會勢委員会

- (1) 25. 4. 18日 2時—4時 桂寺町府営鉄筋住宅見学  
府遠藤技師説明後施工戸田組加納工事部長案内 2棟 48戸見学 参加15名(会告周知不足?)
- (2) 4. 20日 3時—5時 吹田アサヒビール工場見学  
参加37名 同工場小泉技師説明案内後集合ビール乾盃、銭高理事、委員長代理として大和理事会勢発展に協力方依頼等歓談散会
- (3) 5. 4日 正午 朝日ビル事務所 松村理事外委員等7名出席 委員長松村雄吉氏互選、銭高田委員長挨拶後本年度事業其他協議
- (4) 5. 13日 鴻池新田 近畿地方建設局公務員住宅見学会 参加53名 有邦建築社員案内にてアツシユ建築、浅間建材社、佐々木式セメント等ブロック建設の実地を見学。鴻池会所座敷に集合、生駒連山を眺めて会所由来の概説と三社の建築内容説明を聴き五時散会
- (5) 5. 29日 大阪スタジアム見学 参加 48名  
間組現場集合 同組中村技師説明後現場案内後解散
- (6) 6. 9日 大阪造幣庁見学 参加 20名 桜も過ぎ金にも縁が遠いか昔の造幣局と違い関心が薄く参加者も少かつた
- (7) 6. 18日(日曜日) 洛西見学会、京都支部と共同京都市バス借切りで苔寺—嵐山、高尾を一巡すると云ふスバラシイプランも朝来雨のため僅に30名の参加であつた、但参加者は一同大変満足された。
- (8) 6. 26日 於朝日事務所 委員会 政岡副委員長外5名。7月後の事業企画を樹てた
- (9) 7. 5日 真口幹事 大和理事外会合 阪神パーク六甲山上見学につき実地調査
- (10) 7. 25日 5時 四天王寺旧講堂跡発掘物見学 池田谷久吉氏説明案内、意義ある見学なりしも参加者極め少数
- (11) 7. 20日 4時 扇町公園内扇町プール見学 参加100余名、鴻池組長谷川現場主任、市池田係長等の説明案内 盛会。
- (12) 7. 23日 3時阪神パーク見学 猛雨となり参加10名 大林組現場係(児童館)及真口阪神建築課長外の説明案内、館内外パーク、並甲子園プールをも見学。
- (13) 8. 11日午後より12日午前 六甲山納涼会、参加者事務局共19名、真口委員の斡旋で山の別荘3棟に分宿涼気満喫下山。
- (14) 10. 14日 大日本紡績社員寮見学 市内亀甲町 会する者80余名、大林組現場片岡、若田主任の案内説明
- (15) 11. 19日(日曜日) 10時—午後5時 桂、修学院離宮見学 参加約60名

- (16) 12. 2日 於分室 委員会 政岡副委員長外7名  
委員追囑、岩佐直則、石井一信二君1月後の企画を  
定め、政岡、斎藤両委員の沖繩事情を聴き年内納め  
の委員会とした
- (17) 12. 11日午前10時—午後2時 大阪高等裁判所見学  
参加32名 菅原弁護士東道、法廷及所内限なく見学
- (18) 26年 1. 20日3時 中座観劇会 参加40名 家族を  
含む かぶき観劇
- (19) 1. 23日午前10時—2時半 南海高島屋地階新装並  
宗右衛門町メトロ見学 参加60名 参加制限数を突  
破の盛況2ヶ所共最新の工事とて非常な盛会であつ  
た
- (20) 2. 22日 2時—4時半 於分室 大海外4名 3月  
以降見学其他協議
- (21) 3. 27日 2時—4時 堺市海山町高田アルミニウ  
ム製作所見学 参加21名 会誌発表で周知不徹底か  
参加少し

## 編集委員会

- (1) 昭和25年4月15日 朝日にて新編集委員会開催、  
引継事項及25年度方針協議、23日九州支部号及7月  
号の協議
- (2) 5月6日 朝日にて 6月及7月号編集協議、5  
月27日、7月8月号につき編集協議
- (3) 6月3日 朝日にて 6月24日天神橋分室にて7  
月号以降の編集につき協議
- (4) 7月3日午前11時より 於分室 8月号編集、10  
月号学校建築につき企画、原稿料基準申合せ、委員  
追加会員意見聴集の件、外国誌転載手続きの件等協  
議、6日4時からと29日午後 於朝日再開 9月号  
編集10月号進行等、議した
- (5) 8月26日午後3時 朝日にて 10月号学校建築号の  
編集協議
- (6) 9月2日午前10時 朝日にて 10月号学校建築号  
の編集割付決定其他協議、9月27日、朝日にて雑  
誌発行経費の詳細に就て協議外国誌より転載に就て  
の協議
- (7) 10月7日午前12時より 朝日ビルにて 小川副委員  
長外7氏出席、11月号編集割付検討、新年号編集計  
画「建築界の展望」号と方針を立て依頼先を決定
- (8) 11月4日1時 朝日 小林副委員長外2名 12月号割  
付新年号本文追加、2月号企画、外国誌転載に関す  
る件等、25日3時より白石委員外3名 11月号原稿  
料の件、2月号寒地建築とジェン台風記録掲載、1  
月号内容検討及同号より8ポ活字を使用する事 紙  
価上昇に対処方法研究等を議した
- (9) 12月7日3時より、朝日ビル本会々議室で小川副委  
員長外7名出席、12月号雑誌批評及昭和26年度の表

紙図案の審査、2月号編輯企画を寒地建築と決定  
21日3時より、朝日ビル本会々議室で小川副委員長  
外8名出席、昭和26年度担当号迄の編輯方針と3月  
号の企画と広告部員との懇談

- (10) 1月9日4時より、大阪建設会館会議室にて大林委  
員長外10名出席 26年度編輯方針に於て記事中広告  
を基準法にする事、活字8ポに依りスライド制に  
原稿料決定カットの作者を一年間専任と決定し議事  
終了後、大林委員長の米国よりの帰朝談とフォーラ  
ム社。アートアンドアーキテクチュア社。アーキテ  
クチュアルレコード社の三社と建築と社会に写真版  
の転載許可を得られた報告あり編集委員一同感謝し  
新年の初会合を終えり。

- (11) 2月3日一時より、朝日ビル本会々議室で小川副  
委員長外5名出席、4月号を大林、鴻池両氏の特辟号と  
決定3月号編輯説明

2月17日 一時より、朝日ビル本会々議室にて小林副  
委員長外3名出席、3月号編輯検討及外国雑誌翻訳の  
分担及アメリカ号の編輯の再打合せ

- (12) 3月10日 一時より、朝日ビル本会々議室に於て小  
林副委員長外3名 2月号原稿料の決定4月号の写真版  
の撰定を小川委員担当とする

3月31日一時より朝日ビル本会々議室にて小川、小  
林両副委員長外7名出席、3月号当誌の批評と4月  
号写真版割付の変更、5月号に各委員会の業績報告  
の件等打合せ

- (13) 4月7日 朝日にて 小川、小林、白石、福田4  
委員出席 昭和25年度最終委員会として引継事項等  
協議、新年度に対しての希望等懇談閉会す

## 四會協定請負規程改正委員会

昭和23年7月以来学会、士会、建設業会、及本会の  
四会連合委員会は本年度も東京に於て屢々会合協議を  
進めていたが漸く其の改正の成案を得たので更に建設  
省側と共同研究の上本連合会案を基礎として中央建設  
業審議会で審議の結果正式確認される運びとなり近く  
改正工事請負契約書及請負契約々款として四会連合で  
印刷に附し使用される事となつた。

尚上記連合会の外本会内の請負規程委員会と之に関  
連して5月30日より年度末迄屢々会合 東京に於ける  
26年3月開催の最終会には藪中一良委員が上京列席協  
議した。追而本委員会及四会連合委員会は其任を完了  
したので26年3月を以て共に解散した。

## 伸びる家展覽會委員会

△25年1月以来準備を進めていた首題展覽會は中野委  
員長外委員と会場提供の大丸側との折衝で成案を得た

ので3月に懸賞図案の募集をした。尚第二会場実物建設を予定企画として大阪新聞社全徳社長外同社幹部と折衝タイアップし之又家と庭と題して懸賞募集した。

#### (1) 伸びる家設計図案懸賞募集

要旨 面積6坪～30坪、賞金入選3各1万円宛、佳作5名3000円宛 締切 3月15日 審査員小林清、棚橋諒三、東畑謙三、三木栄造、中野順次郎、広瀬初夫、村野藤吾、吉田安三郎の諸氏

3月20日 応募132通の審査会開催、入選清水千栄子、今西茂雄、岩本博行、佳作伊藤清、池田次夫、佐々木明夫、桜井観、堀武雄の諸氏

(2) 伸びゆく住宅展開催、4月25日～30日、市内大丸百貨店五階催場、入選佳作図案とモデルハウス展示、模型等参考出品した。

(3) 通俗講演会 4.27 2時～3時大丸5階会議室、住宅公庫に就て、元吉住宅課長、住い方に就て、中野展覧会委員長。

(4) 伸びる家と住い方に就ての展示図案集発行発売。

(5) 第2会場を予定して企画した大阪新聞社との共同主催に依るわが家の設計家と庭の図案下記要領で懸賞募集した。

敷地 50坪、150坪、建坪12～30坪 締切 3月25日  
審査員 伊藤正文、尾崎久助、梶原三郎、小林清、辻野千鶴、中野順次郎、西川浩文、西川ふじ子、大阪新聞社幹部諸氏、賞金1等3万円、2等1万円2名、佳作2千円10名 応募300余通、入選者1等清水千栄子、2等中西茂雄、福中駒吉、佳作 岩本博行、高田弘、鈴木三一、宅来快美、福中雅夫、池田光雄、名倉合恵、鳥居一彦、伊藤浩、光安義光諸氏。  
1等は上六近鉄百貨店で実物作成展示した。

#### △委員

委員長 中野順次郎、副委員長 小林清、幹事岩本博行、樫根英郎、広瀬初夫。

企画。小西岬、重松守善、津村芳一、渡辺、渡多野、木下。

出版。小林清、広瀬初夫、星広文。

展示。岩本博行、彦谷、白石博三、林野全孝。

## 近畿建築法規委員会

6月24日 於朝日ビル協会事務室、建築学会近畿支部と合同の下に建築基準法制定につき協議の結果、上記委員会を特設して建設省の諮問に応え又は上申す目的で下記の通進行した。

#### 委員会構成

委員長 中沢誠一郎。構造計算分科、主査 坂前雄。

委員 棚橋諒、西山卯三、松井清之助、森口浩、森田慶一、鷺尾健三。防火分科、主査尾崎久助。

委員 井上新二、神足繁雄、吉田信武、吉田安三郎、中沢誠一郎。

都市計画分科、主査 稗田治。委員 桐本恒雅、東畑謙三、中西六郎、村野藤吾、山内嘉兵衛。工事分科主査 小田島兵吉。委員 石川純一郎、岡本弘、高山馨、竹中鍊一、土岐達人。

以上各分科会は直に夫々開催協議を進めた。

7月14日 朝日ビル4階特別室で全委員会開催、此の日特に大阪に於けるビルヂング協会より代表として中橋武一、野村愛民、田代一氏等特別列席、ビル建物の高さの制限につき格別の検討審議されたい希望意見を聴取後開催、各分科会の検討事項を取纏め直に東京学会本部及建設省に内示し上京中の京阪神建築部長に連絡した。

7月20日 於朝日4階特別会議室開催、建設省村井防災課長、小宮技官、東京都関係3名、奈良和歌山県建築課長等特別列席、委員長外13名出席、村井、小宮両氏より建設省側の説明後夫々内容につき検討意見交換後、本月27日迄成案作成申合せ。

7月24日 於朝日協会事務室総委員会開催、14名出席、各分科資料を集録、別項の如く整備した後謄写にし26日朝、中沢委員長が持参上京夫々関係先に手交した。以上本委員会完結。

## 建築関係法規に関する講演会

10月7日 於朝日本部事務所 上記講演準備委員会開催森田慶一氏外10名出席、協議の結果、建築基準法、土法、防火関係法規講演会企画を定め下の通り打合せ夫々挙行了。

京都、労働会館 11月15～16日。大阪、都島高工講堂。17～18日神戸、産婆会館 21～22日。主催、各府県、学会支部、日本建築協会、土会支部、建設業協会、外関係団体。講師、建設省、各地方官主管課長。経費各主催者分担。

ペデスタル杭  
太洋組株式會社

大阪市北区胡笠町堂ビル  
電話堀川 951 1820.



15.0 坪 A

## 住宅委員会

5月19日 朝日事務所

委員長に元吉勇太郎氏を互選、事業計画検討。

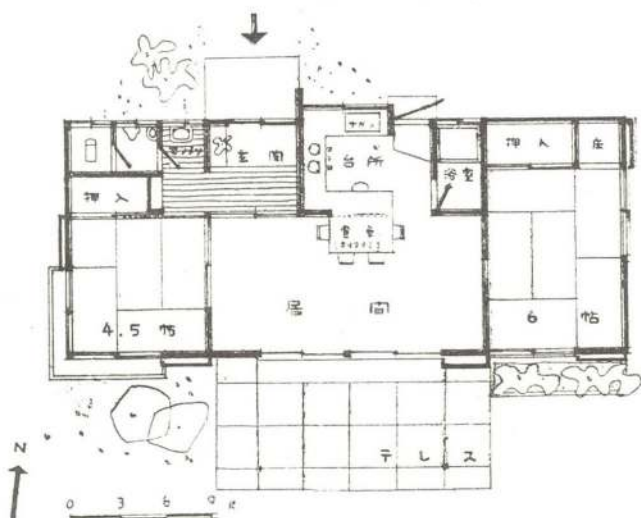
11月1日と同月14日 朝日事務所開会 元吉

委員長外出席

幹事追加の件、住宅公庫融資による設計図集刊行の件、請負単価に関する件等を議す。

3月30日 朝日事務所 委員長外5名出席

前回申合せの設計の件検討し会誌掲載の件を議す。

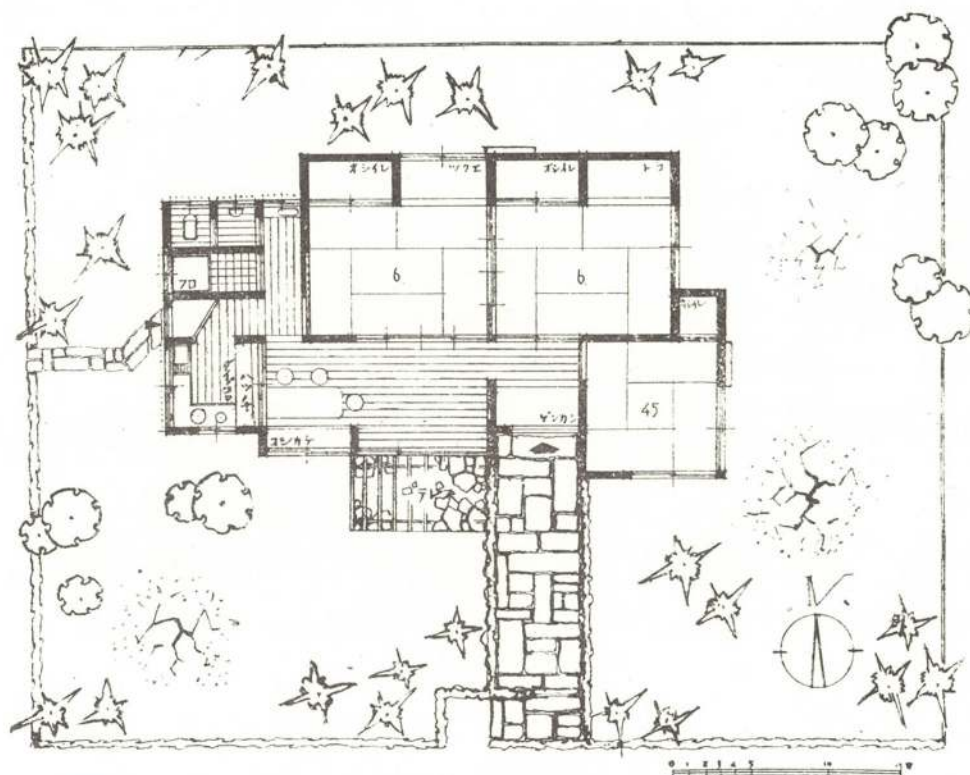


平面図

住宅委員会では、住宅金融公庫を利用して家を建てる人々が、いままでの中小住宅をそのまま縮小したような、いわゆる封建的な住宅を建てる人が相当にあるので、そう云つた人々のために、新時代にふさわしい明朗、快的、利便を目標とした住宅の設計図作成を計画していたがそのうち平面図と立面図の成果を得たのでここに1～2を紹介する。

(A) この案は北入玄関。9帖大の居間と、3帖大の台所を南北にT型に結びつけ、リビングキッチンを形成しここで居間の生活の大半がなされる。又東と西に6帖と4帖半を配りこは夫婦と子供の寝室に使われる。

リビングキッチンには、いろいろと問題はあろうが、この程度の住宅では私室はともかく、家族共用の居間を余り小さく区切らぬこと、通路部を出来るだけ排することが必要であるため、かかる大きな居間を採用した。

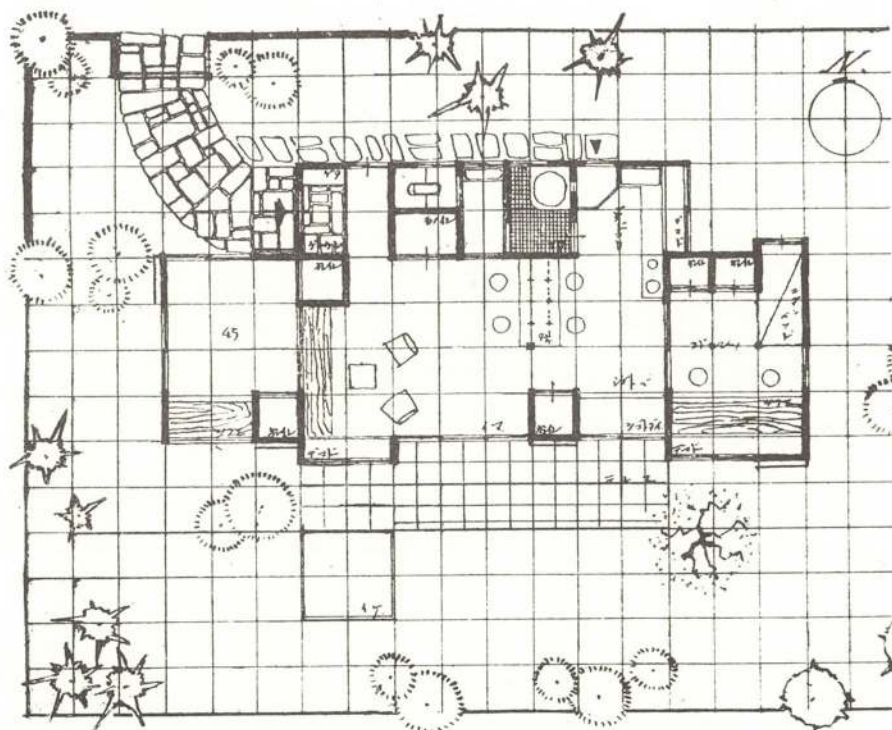


**B** 17.25 坪

平面図

**C** 18.0 坪

平面図



(B) これは片廊下式の配室。すなわち南面する広縁(巾8.125尺)に、玄関を設けるとともに6帖2室、4帖半、作業部などを結びつけている。広縁に面する6帖は床を高くして、坐式、椅子式両様に使える様にしたのは云うまでもない。又、広縁の一隅に食卓を設け、台所とハッチで連絡する。便所、浴室部分に最小限必要な廊下があるが、これはいわば洗面、脱衣室でもあるから、通路部分が全くないプランと云ってよい。

(C) この案は西入玄関、A案とよく似ているが、中央居間の東に主婦の仕事場を設け、食卓とその上方に食器戸棚を造り、居間と一応区切をつけたのを特長とする。又、西の4.5帖に入るのに板敷部を設け、これを腰掛の代用とする。

# 会 員 動 静

## 入 会 者

### 二 号 会 員 註( )内は御紹介者名

(本 部)

小田工務店 福島区玉川町2の132。松竹〔株〕大阪支店  
工務課 南区久左衛門町8。東京芝浦電気〔株〕大阪支  
社 北区堂島浜通1の15。

### 正 会 員

(本 部)

栗野卓郎 泉大津市小松町77〔国藤建設株〕〔岡村博巳〕。  
渋谷繁次 府下中河内郡盾津町新庄〔井上組〕〔井上福  
藏〕。白木小三郎 神戸市須磨区磯馴町5の1〔大阪市大  
家政学部〕。田畑久雄 福島区下福島2の128〔自営〕。辻  
本嘉男 北区天満橋筋2の22〔株安田工務店〕。土田祝郎  
泉大津市小松町77〔国藤建設株〕〔岡村博巳〕。中川信  
三 福島区海老江上3の112〔井上組〕〔井上福藏〕。中野  
秀重 吹田市垂水632〔吹田市土木部〕〔星広文〕。西口  
敏克 東区本町1の1〔自営〕。西後春男 城東区左専道  
町2〔井上組〕〔井上福藏〕。野木進 東淀川区淡路新町  
4〔自営〕。南野繁夫 府下中河内郡玉川町岩田903〔日  
本技術建設株〕。山田外一 京都府宇治市五ヶ庄大森25

〔井上組〕〔井上福藏〕。吉沢昭男 生野区勝山通り7の  
435〔中川組〕。

(兵庫支部)

大頭隆雄 神戸市登合区二宮町4の2。前川桂久 兵庫県  
三原郡複列村掃守〔納建築事務所〕〔納茂〕。

(九州支部)

海野三蔵 八幡市高見町8。薄知一 福岡市箱崎塔本224  
9の1〔株富島組〕〔薄与荘〕。

(京都支部)

木村市太郎 京都市下京区東九条山王町17〔内外木工  
株〕。

(地 方)

杉政宏一 愛媛県新居浜市新田町乙1758〔日新化学工業  
土建課〕〔服部博〕。

### 準 会 員

(本 部)

澄川英昭 神戸市兵庫区有野町堀越291〔鍛冶延男〕。

## 轉 居, 轉 勤

### 二 号 会 員

(本 部)

朝日スレート(株)朝日石綿工業(株)に変更。朝日電  
子工業(株)新光ランプ(株)に変更。近畿高岡建設  
(株)高岡建設に変更。(株)コマツ商会 北区梅ヶ枝  
町93。安井建設(株)藤井建設(株)に変更。

### 正 会 員

|                                                                      |                     |                   |                       |                                                              |
|----------------------------------------------------------------------|---------------------|-------------------|-----------------------|--------------------------------------------------------------|
| 合 会<br>社 資 村 重 兵 衛 商 店<br>大 阪 市 北 区 木 幡 町 三 一 番<br>電 話 堀 川 四 一 六 四 番 | 合 理 的 工 法 ・ 責 任 施 工 | 防 錆 完 全 ・ 中 空 防 音 | 耐 震 ・ 耐 火 ・ 軽 量 ・ 堅 牢 | 間 仕 切 ・ 天 井 に<br>は 軽 量 鉄 骨 を<br>軽 鉄 骨 は 日 進<br>式 を 御 採 用 下 さ |
|                                                                      |                     |                   |                       |                                                              |

強く優雅な

## リクノイド床

テックス  
フローリング  
異次元通風

責任施工

## 田辺工業有限会社

大阪市西区江戸堀下通二ノ一七  
電 土佐堀 44 2677・4471

(本 部)

伊勢彰 旭区大宮町7の314。石川修 西淀川区御幣島中  
1の2坂内工務所 準会員より。 岩本基 北区梅ヶ枝町

84 (株) 岩本工務店。植木清 東住吉区山坂町3の59。

川瀬渉 西宮市熊野町37。川村種一郎 (株) 安井建築  
設計事務所に名称変更。北野正雄 神戸市登合区野崎通

4の1の5。久米平蔵 東住吉区駒川8の7。小西正次 北  
区堂島浜通2の8東洋紡績 (株) 営繕課。近藤保 八尾市

山本3の1住友自勝寮。才木芳晴 豊中市新免905 (株)

牧野組技術部長。志垣正次 北区堂島浜通1の104 (株)

明正社 復活。杉本治 豊中市豊中本通3の5。杉本清範

東住吉区大塚町145。田口久太郎 東区南本町3の25市田

ビル 小河建築事務所 準会員より。田中正典 伊丹市

若松町412の3中国支部より。高橋保夫 阿倍野区文ノ里  
町2の72。谷信太 豊中市小松通り1の7 東海支部より

富吉志乃武 京都市上京区紫竹上芝本町51 九州支部よ  
り。中沢次郎 東区高麗橋2の9野村建設工業 (株) 準

会員より。野々村五四男 大阪市立大学家政学部。

長谷川信太郎 西宮市甲子園口北町46。森定松之祐

城東区諏訪町西2の8。山野重信 布施市長栄寺1の79。

吉川清一 清水建設 (株) 東海支部より。吉村定光  
生野区林寺新家町137。

(兵庫支部)

伊勢村四郎 神戸市東灘区本山町小路字竹の前11の1。

大木基弘 神戸市東灘区魚崎町729の45。錦田直一 兵

庫県建築部住宅課長 九州支部より。

(九州支部)

川瀬喜久雄 長崎市万才町竹中工務店長崎出張所。中村

隆慶 福岡市下土居町3住友ビル 日建設計工務福岡支所。

山田英男 日建設計工務福岡支所 本部より。

(中国支部)

小南克己 広島市水主町510。村田正 広島市基町1 睦

建築事務所

(京都支部)

木子信一 京都市上京区北野白梅町28。

(地 方)

木村健次 東京都世田ヶ谷区玉川等々力1の1980 三輪俊

三方 九州支部より。佐々木久雄 東京都江東区深川

佐賀町1の10東和建設 (株)。鈴木一幸 清水建設東京本

社 本部より。深沢勝久 清水建設東京本社 本部より。

松永崇志 新潟県長岡市蔵王町呉羽紡内東畑建築事務所。

矢作英雄 東京都建築局指導課 準会員より。

準 会 員

福居正憲 豊中市長興寺仮地番355桜塚住宅13号。

サッシュ・ドアー・シャッター  
鋁金製品・自動車々体  
部品・車輛・発動機

## 日本建鉄株式会社

大阪事務所 大阪市西区江戸堀上通二ノ五七  
電話土佐堀④2188番  
本 社 及 東京都荒川区三河島七ノ七八〇  
東京工場 電話下谷8155~8159  
中川工場 東京都葛飾区奥戸本町一〇〇〇  
電話本田190・196・1018  
船橋工場 千葉県船橋市海神町二ノ三五〇  
電話船橋509~511  
丸ノ内 東京都千代田区丸ノ内二ノ三  
営業所 三菱新館内 電話丸ノ内973・4501

日本建築学会、日本建築士会  
日本建築協会、全国建設業協会

四會連合協定

## 工事請負契約約款完成頒布

従来四会協定の工事請負規程は大正12年決定以来数度一部改正使用されていたが戦後の社会情勢に副わないため数年前から上記四会連合で協定を進め本年2月漸く其の決定を見工事請負契約約款とし頒布する事となつた、此の約款は本年2月14日中央建設業審議会決定の民間建設工事標準請負契約約款甲と同一内容で本会雑誌と同型の11頁一部と工事請負契約書一枚からなつてゐる、本契約書は各方面から久しく待望せられていたが今回東京に於て印刷完成されたので拡く頒布する事となつたものである。

御入用の方は下記により御申込下さい。

一部 ¥30.00 但送料を要する時は一部につき

¥ 36.00

昭和26年6月1日

社団法人 日本建築協会

大阪市北区中之島朝日ビル、又は市内東区天神橋大阪建設会館分室宛の事、振替大阪39975番

### 工事請負契約約款目次内容

1. 総 則
2. 請 負 者
3. 一括委任と一括下請負
4. 権利義務の承継等
5. 保 証 人
6. 監 理 技 師

7. 現場代理人、主任技術者
8. 工事関係者についての異議
9. 検査、立会
10. 支給材料、貸与品
11. 適合しない施工
12. 損害の防止
13. 第三者の損害
14. 一般損害の負担
15. 危険負担
16. 損害保険
17. 完成、検査、引渡
18. 部分、使用
19. 請求、支払
20. 瑕疵の担保
21. 工事の変更
22. 工期の変更
23. 請負代金の変更
24. 履行遅滞、違約金
25. 甲の解除権
26. 乙の解除権等
27. 解除後の処置
28. 工事代行
29. 紛争の解決、仲裁
30. 補 則

### 編 集 後 記

「秋ならで五月も寒し驚の簍」も過ぎ「六月の氷もとく都かな」と自然は変つて行きます。

作家としてサーリネンの遺作、教会建築の御紹介をして会員諸兄の印象に残れば、幸と思います。

建築文化と云い、新建築と云い、国際建築と云い、皆すばらしい活躍に（例へ商業雑誌だとしても）建築界の啓蒙誠に偉大なものが御座居ます。

一人「建築と社会」がをさまつてはいられないような気がします。次号は関西が生んだ偉大な作家、村野藤吾先生のホテル建築特輯を少い乍ら掲載させて頂く考へで居ります。

例へたの炬にくべられる野の白百合花だとしても其の目的の中心に編集委員会は進んで行きます。

## 建 築 と 社 会

第 3 2 輯 第 6 号

売価 1部80円（送料共）

昭和26年5月25日印刷・昭和26年6月1日発行

編集発行人 戸 川 弘  
発 行 所 社団法人 日本建築協会

大阪市北区中之島3ノ3朝日ビル  
電話 北 浜 ☎ 1334〜9 番  
振 替 口 座 大 阪 39975 番

大 阪 市 北 区 堂 山 町 6 6  
印 刷 者 網 野 栄  
大 阪 市 北 区 堂 山 町 6 6  
印 刷 所 研 交 社 電話 ☎ 2056 番

●第三二集 第六号 掲載広告一覧（掲載順）

日本レイヨン  
大建工業  
内外土木建材社  
協和製作所  
久保商店  
関西スレート  
三機工業  
大阪城口研究所  
大阪電気商会  
桐田商会  
齊久工業  
須賀工業  
西原衛生工業所  
建材社  
三晃商会  
栄興商会  
近畿電気工事  
スタビラー工業  
ヤマト電気商会  
浅海電気産業  
金剛商会  
ライトラバー興業

日本セメント防水剤製造所  
大阪コンベス建材社  
産業スレート  
大島応用化学工業  
福屋工業所  
内外建材工業  
宮本建材  
関城化学工業所  
大和商会  
井田商事  
高野アスファルト工業  
松浦興業  
大阪防水建設社  
三高製作所  
岡居宇一商店  
理研鋼材  
中川ラス製作所  
室谷商店  
福昌  
片山鉄工所  
江昌  
大和金属工業

オリエンタルメタル製造  
亀井  
琴港堂七彩工芸  
関西塗装工業  
芦屋左官工業所  
万勢商会  
尾北商店  
日東商会  
水島商店  
米谷建材店  
檉野石灰工業  
三舟窯業  
興亜建設工業  
ナニワ瓦本店  
川岸窯業  
三幸商会  
吉田芳雄商店  
①タイル営業所  
天王寺木工  
満点製作所  
古石床材店  
木下謹三商店  
日新工業  
藤井建設

碓組  
片倉の鋼管  
大阪建材工業  
山本建材社  
理研サッシュ  
鈴木シヤタア商会  
油脂化工社  
大三製作所  
田島応用化工  
朝日石綿工業  
植田商店  
コーサイ化学工業